

未来の斑鳩町立小・中学校のあり方に関するアンケート調査の結果

1. 調査概要

(1) 目的

- ①地域の皆様が、小中学校における1学級あたりの児童生徒数や1学年あたりの学級数、学校の配置、役割等に係る今後の小中学校のあり方等に関してどのような考えがあるかを把握すること
- ②町立学校の適正規模・配置に係る構想の根拠付け

(2) 調査対象・抽出方法

斑鳩町に住民登録のある18歳以上の「町民・300人」を無作為に抽出、及び、町内の保育園・幼稚園（町立と私立）に通園、及び、町立小中学校に通学されているお子様の「保護者・3,206人」、町立小中学校に勤務されている「教職員・199人」と町立幼稚園・保育園に勤務されている「教職員・73人」の「合計・272人」を対象

(3) 調査期間

令和6（2024）年11月8日（金）～11月29日（金）

(4) 調査方法

対象者	調査票	回答
町民	郵送	郵送・インターネット
保護者	児童生徒を介して	インターネット
教職員	手渡し	インターネット

(5) 回収結果

対象者	配布数	回答数	回答率
①町民	300	124	41.3%
②保護者	3,206	1,020	31.8%
③教職員	272	185	68.0%
合計	3,778	1,329	35.2%

①町民（お住まいの町丁目より校区分け）

小学校区	中学校区	回答数
斑鳩小学校	斑鳩中学校	33
斑鳩小学校	斑鳩南中学校	14
斑鳩西小学校	斑鳩中学校	6
斑鳩西小学校	斑鳩南中学校	20
斑鳩東小学校	斑鳩中学校	16
斑鳩東小学校	斑鳩南中学校	15
不明	不明	20
合計		124

②保護者

【幼稚園・保育園】

お子さんの 通園先	0 歳児			1 歳児			2 歳児		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
町立幼稚園	—	—	—	—	—	—	—	—	—
町立保育園	9	2	22.2%	36	7	19.4%	52	6	11.5%
私立保育園等	16	5	31.3%	64	13	20.3%	78	19	24.4%
合計	25	7	28.0%	100	20	20.0%	130	25	19.2%

お子さんの 通園先	3 歳児			4 歳児			5 歳児			計		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
町立幼稚園	28	3	10.7%	29	3	10.3%	29	9	31.0%	86	15	17.4%
町立保育園	68	15	22.1%	66	14	21.2%	65	20	30.8%	296	64	21.6%
私立保育園等	128	43	33.6%	108	46	42.6%	135	61	45.2%	529	187	35.3%
合計	224	61	27.2%	203	63	31.0%	229	90	39.3%	911	266	29.2%

【小学校】

	1 年			2 年			3 年		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
合計	229	68	29.7%	279	93	33.3%	229	68	29.7%

	4 年			5 年			6 年			計		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
合計	244	67	27.5%	280	78	27.9%	256	78	30.5%	1,517	452	29.8%

【中学校】

	1 年			2 年			3 年			計		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
合計	262	112	42.7%	262	107	40.8%	255	83	32.5%	779	302	38.8%

③教職員

施設名	配布数	回答数	回収率
小学校	132	94	71.2%
中学校	67	47	70.1%
幼稚園	23	18	78.3%
保育園	50	26	52.0%
合計	272	185	68.0%

2. アンケート結果の概要

(1) 小学校の規模について

- ・ 小学校の1学級あたりの児童数は、「現状のままでよい」が56%で最も高く、次いで、「現状より少ない方がよい」が43%である。
- ・ 「現状より少ない方がよい」と答えられた方の理由は、「児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われる」が554人で最も多く、次いで、「教室にゆとりができる」が317人、「一人ひとりが大切にされる」が297人である。
- ・ 望ましい学級数は、「1学年あたり2～3学級」が81%で最も高い。
- ・ 「1学年あたり1学級」と答えられた方の理由は、「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる」が72%で最も高い。

(2) 中学校の規模について

- ・ 1学級あたりの生徒数について「現状のままでよい」が61%で最も高く、次いで、「現状より少ない方がよい」が37%である。
- ・ 「現状より少ない方がよい」と答えられた方の理由は、「生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる」が462人で最も多い。
- ・ 望ましい学級数は、「1学年あたり2～3学級」と「1学年あたり4学級以上」がほぼ同数である。
- ・ 「1学年あたり1学級」または、「1学年あたり2～3学級」と答えられた方の理由は、「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる」が59%で最も多い。

(3) 小学校の配置について

- ・ 小学校の通学時間は、「15分未満」と「15分以上30分未満」で87%であり、通学時間の許容範囲は、「15分未満」と「15分以上30分未満」で81%となっている。

(4) 中学校の配置について

- ・ 中学校の通学時間は、「15分未満」と「15分以上30分未満」で87%であり、通学時間の許容範囲は、「15分未満」と「15分以上30分未満」で63%となっている。

(5) 地域における拠点としての役割について

- ・「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」が1,029人で最も多く、次いで、「地域防災の拠点」が703人、「スポーツ活動の拠点」が598人である。

(6) 学校の適正な規模・配置について

- ・検討にあたり配慮すべき点は、「多様な考え方に触れる機会の確保」が35%で最も高く、次いで、「幼・保・小の連携、小・中連携の推進」が23%で、「放課後児童、小1の壁対策の推進」が22%である。

(7) 施設の老朽化対策の進め方について

- ・「現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える」が32%で最も高く、次いで、「将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える」が25%である。

3. アンケート結果（町民、保護者、教職員合算）

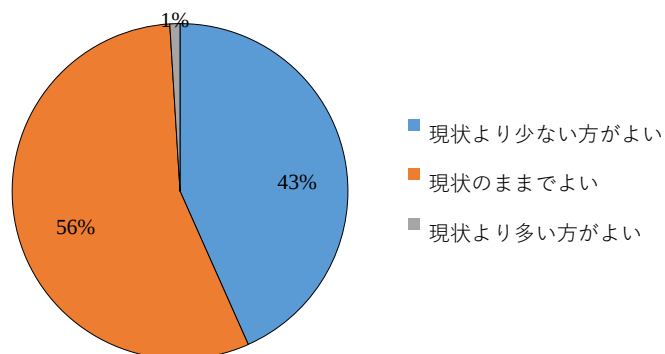
問1. 小学校の規模について

（1）1学級あたりの児童数について（1つ回答）

- ・「現状のままでよい」が56%で最も高く、次いで、「現状より少ない方がよい」が43%である。

選択肢	回答数	割合
現状より少ない方がよい	576	43%
現状のままでよい	740	56%
現状より多い方がよい	13	1%
合計	1,329	100%

（1）1学級あたりの児童数



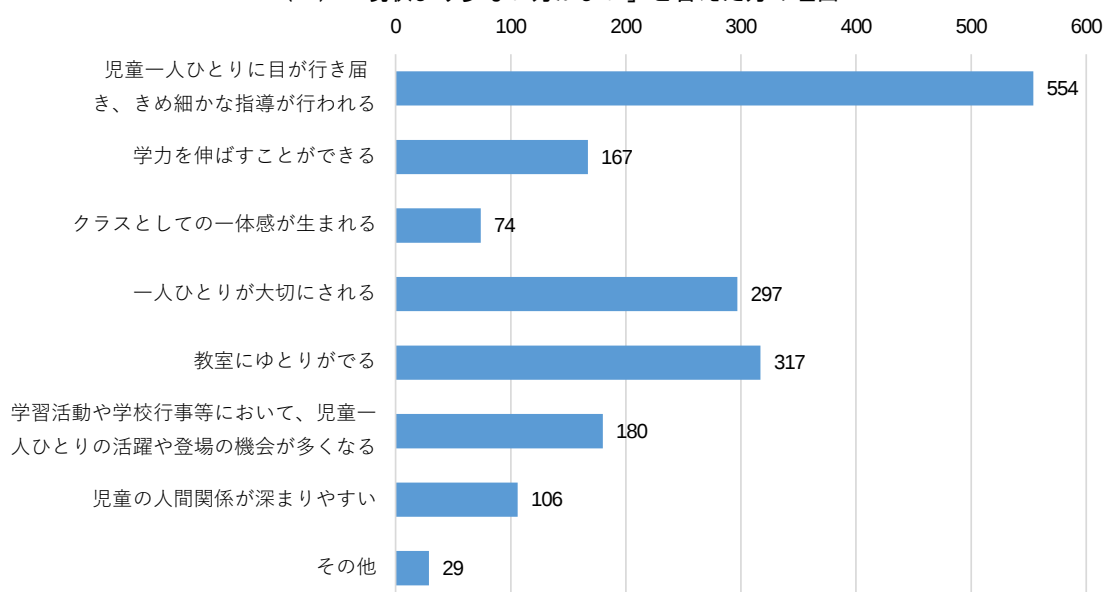
(2) (1) の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方の理由

(複数回答可)

- ・「児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われる」が 554 人で最も多く、次いで、「教室にゆとりがでる」が 317 人、「一人ひとりが大切にされる」が 297 人である。

選択肢	回答数
児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われる	554
学力を伸ばすことができる	167
クラスとしての一体感が生まれる	74
一人ひとりが大切にされる	297
教室にゆとりがでる	317
学習活動や学校行事等において、児童一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる	180
児童の人間関係が深まりやすい	106
その他	29
合計	1,724
回答者数	576

(2) 「現状より少ない方がよい」と答えた方の理由

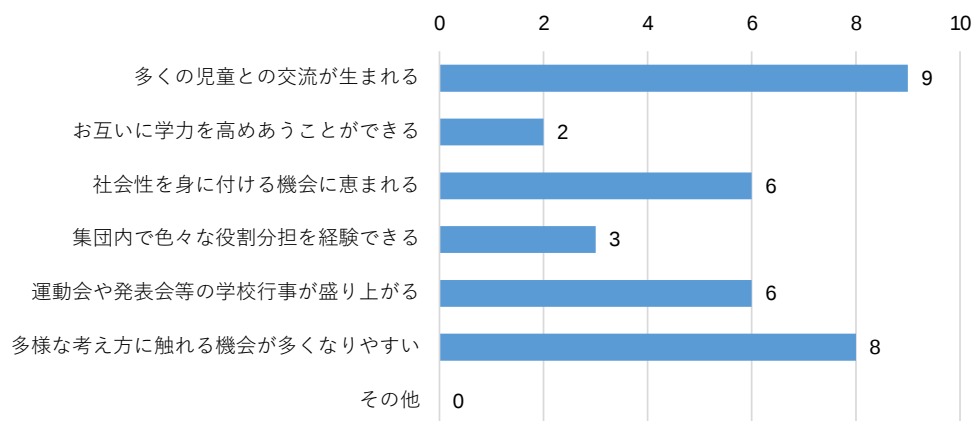


(3) (1) の回答で「現状より多い方がよい」と答えられた方の理由（複数回答可）

- ・「多くの児童との交流が生まれる」が9人で最も多く、次いで、「多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい」が8人である。

選択肢	回答数
多くの児童との交流が生まれる	9
お互いに学力を高めあうことができる	2
社会性を身に付ける機会に恵まれる	6
集団内で色々な役割分担を経験できる	3
運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる	6
多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい	8
その他	0
合計	34
回答者数	13

(3) 「現状より多い方がよい」と答えた方の理由

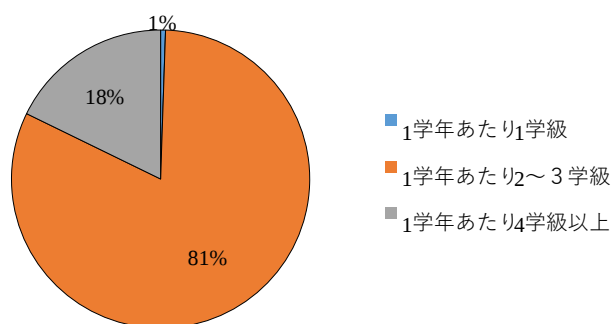


(4) 望ましい学級数 (1つ回答)

- ・「1 学年あたり 2～3 学級」が 81 %で最も高く、次いで、「1 学年あたり 4 学級以上」が 18%である。

選択肢	回答数	割合
1 学年あたり 1 学級	7	1%
1 学年あたり 2～3 学級	1, 087	81%
1 学年あたり 4 学級以上	234	18%
合計	1, 328	100%

(4) 1 学年あたりの学級数

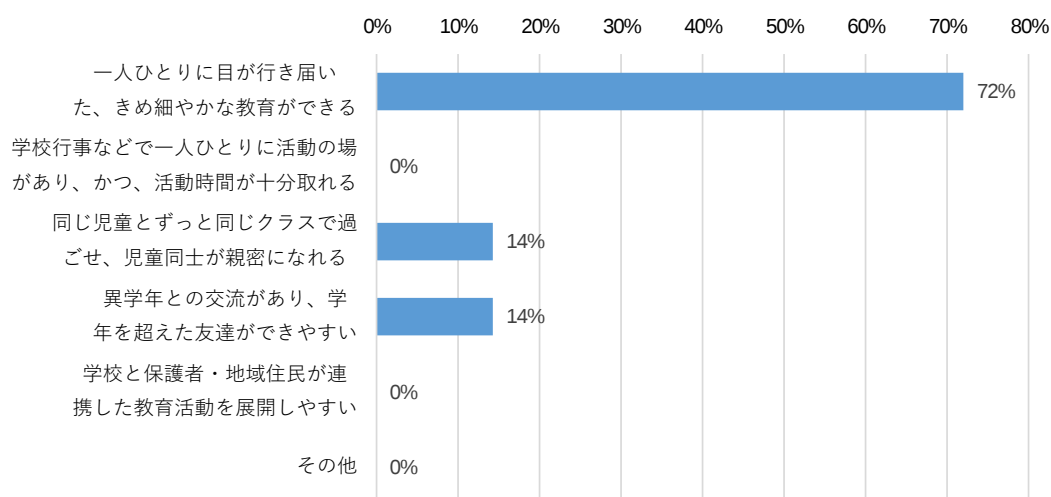


(5) (4) の回答で「1学年あたり1学級」と答えられた方の理由（1つ回答）

- ・「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる」が72%で最も高い。

選択肢	回答数	割合
一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる	5	72%
学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる	0	0%
同じ児童とずっと同じクラスで過ごせ、児童同士が親密になれる	1	14%
異学年との交流があり、学年を超えた友達ができやすい	1	14%
学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	0	0%
その他	0	0%
合計	7	100%

(5) 「1学年あたり1学級」と答えた方の理由

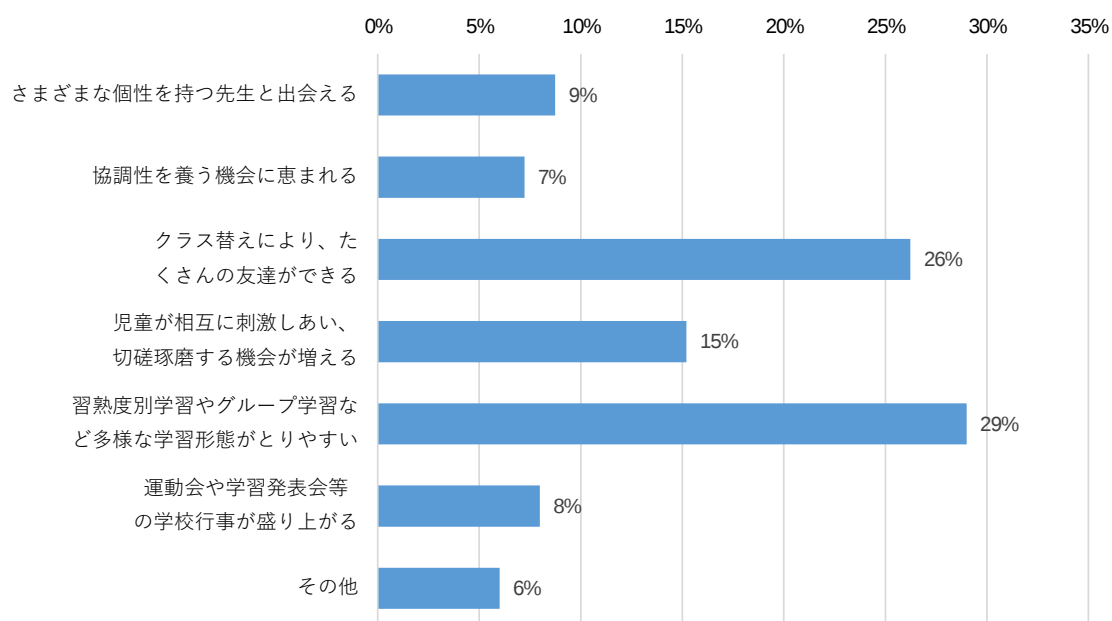


(6) (4) の回答で「1学年あたり4学級以上」と答えられた方の理由(1つ回答)

- ・「習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい」が29%で最も高く、次いで、「クラス替えにより、たくさんの友達ができる」が26%である。

選択肢	回答数	割合
さまざまな個性を持つ先生と出会える	23	9%
協調性を養う機会に恵まれる	19	7%
クラス替えにより、たくさんの友達ができる	69	26%
児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える	40	15%
習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	74	29%
運動会や学習発表会等の学校行事が盛り上がる	21	8%
その他	17	6%
合計	263	100%

(6) 「1学年あたり4学級以上」と答えた方の理由



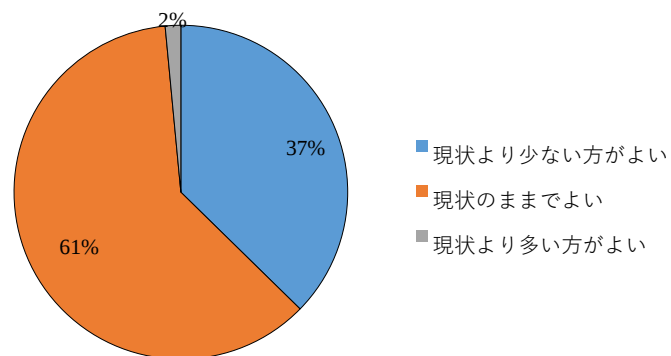
問2. 中学校の規模について

(1) 1学級あたりの生徒数について(1つ回答)

- ・「現状のままでよい」が61%で最も高く、次いで、「現状より少ない方がよい」が37%である。

選択肢	回答数	割合
現状より少ない方がよい	495	37%
現状のままでよい	811	61%
現状より多い方がよい	20	2%
合計	1,326	100%

(1) 1学級あたりの生徒数



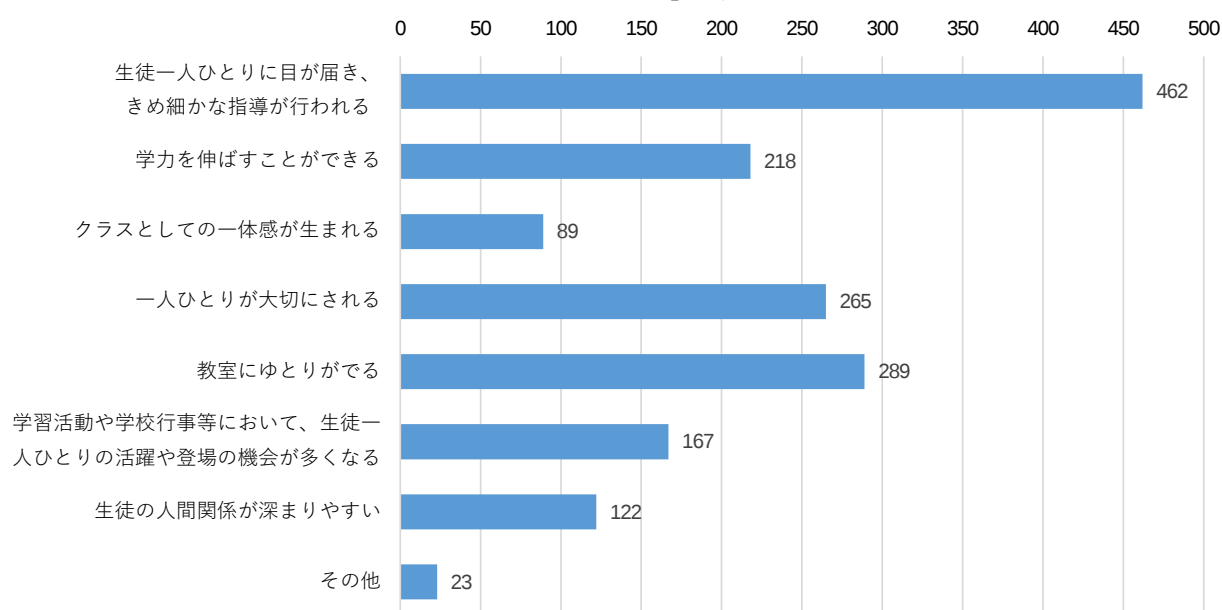
(2) (1) の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方の理由

(複数回答可)

- ・「生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる」が 462 人で最も多く、次いで、「教室にゆとりがでる」が 289 人、「一人ひとりが大切にされる」が 265 人である。

選択肢	回答数
生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる	462
学力を伸ばすことができる	218
クラスとしての一体感が生まれる	89
一人ひとりが大切にされる	265
教室にゆとりがでる	289
学習活動や学校行事等において、生徒一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる	167
生徒の人間関係が深まりやすい	122
その他	23
合計	1,635
回答者数	495

(2) 「現状より少ない方がよい」と答えた方の理由

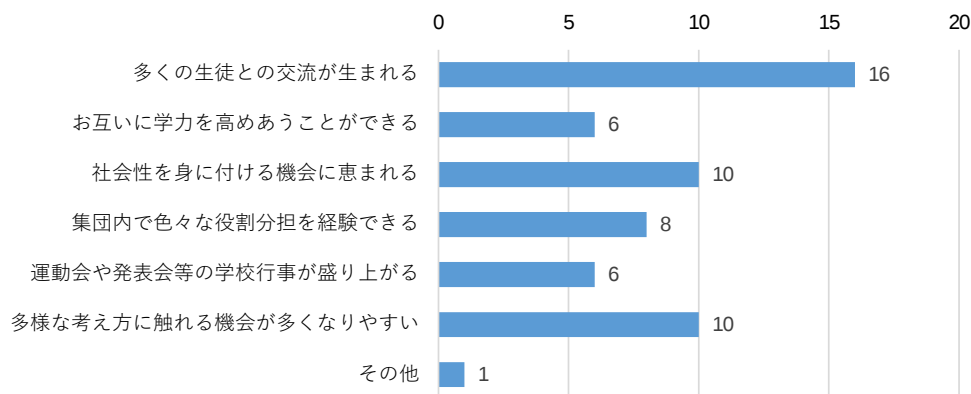


(3) (1) の回答で「現状より多い方がよい」と答えられた方の理由（複数回答可）

- ・「多くの生徒との交流が生まれる」が 16 人で最も多く、次いで、「社会性を身に付ける機会に恵まれる」と「多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい」が 10 人である。

選択肢	回答数
多くの生徒との交流が生まれる	16
お互いに学力を高めあうことができる	6
社会性を身に付ける機会に恵まれる	10
集団内で色々な役割分担を経験できる	8
運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる	6
多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい	10
その他	1
合計	57
回答数	20

(3) 「現状より多い方がよい」と答えた方の理由

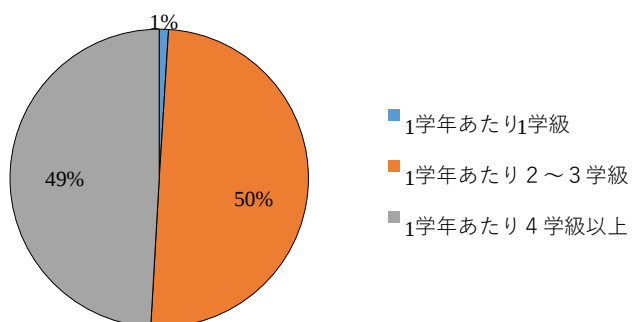


(4) 望ましい学級数 (1つ回答)

- ・「1 学年あたり 2～3 学級」と「1 学年あたり 4 学級以上」がほぼ同数である。

選択肢	回答数	割合
1 学年あたり 1 学級	4	1%
1 学年あたり 2～3 学級	666	50%
1 学年あたり 4 学級以上	655	49%
合計	1, 325	100%

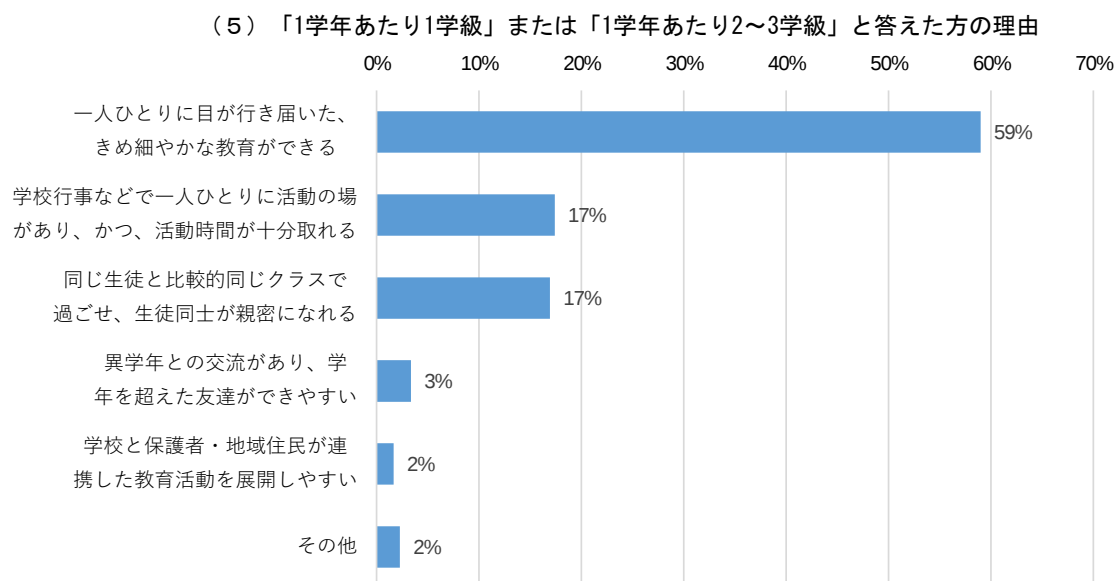
(4) 1 学年あたりの学級数



(5) (4) の回答で「1学年あたり1学級」または、「1学年あたり2～3学級」と答えられた方の理由（1つ回答）

- ・「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる」が59%で最も高く、次いで、「学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる」と「同じ生徒と比較的同じクラスで過ごせ、生徒同士が親密になれる」が17%である。

選択肢	回答数	割合
一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる	382	59%
学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる	114	17%
同じ生徒と比較的同じクラスで過ごせ、生徒同士が親密になれる	111	17%
異学年との交流があり、学年を超えた友達ができる	22	3%
学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	11	2%
その他	15	2%
合計	655	100%

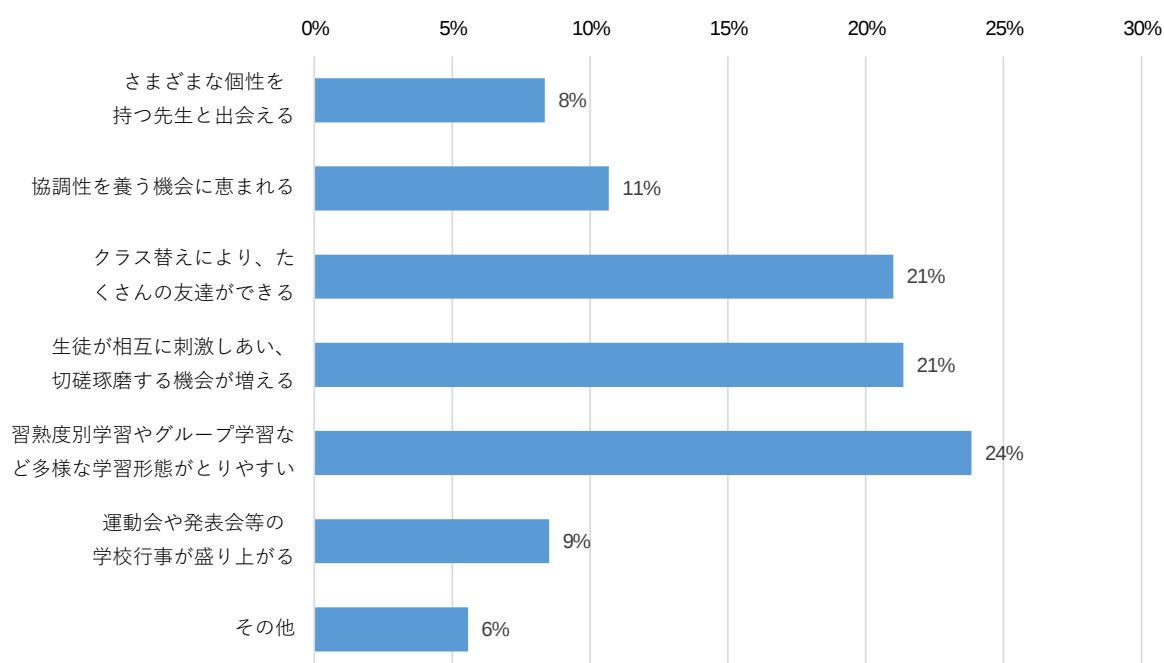


(6) (4) の回答で「1学年あたり4学級以上」と答えられた方の理由(1つ回答)

- ・「習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい」が24%で最も高く、次いで、「クラス替えにより、たくさんの友達ができる」と「生徒が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える」が21%である。

選択肢	回答数	割合
さまざまな個性を持つ先生と出会う	54	8%
協調性を養う機会に恵まれる	69	11%
クラス替えにより、たくさんの友達ができる	140	21%
生徒が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える	138	21%
習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	154	24%
運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる	55	9%
その他	36	6%
合計	646	100%

(6) 「1学年あたり4学級以上」と答えた方の理由



問3. 小学校の配置について

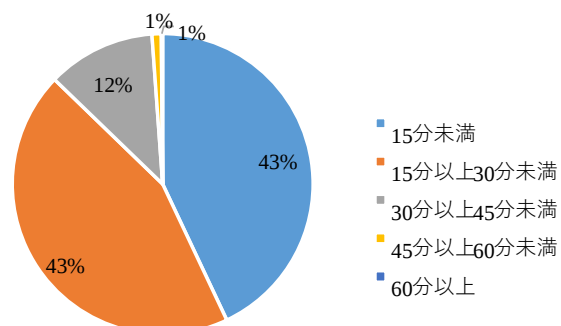
(1) 実際の小学校までの通学時間（1つ回答）

※小学校に通われている児童がおられる方のみ

- ・「15分以上30分未満」と「15分未満」がほぼ同数である。

選択肢	回答数	割合
15分未満	197	43%
15分以上30分未満	202	44%
30分以上45分未満	49	11%
45分以上60分未満	3	1%
60分以上	1	1%
合計	452	100%

(1) 小学校までの通学時間

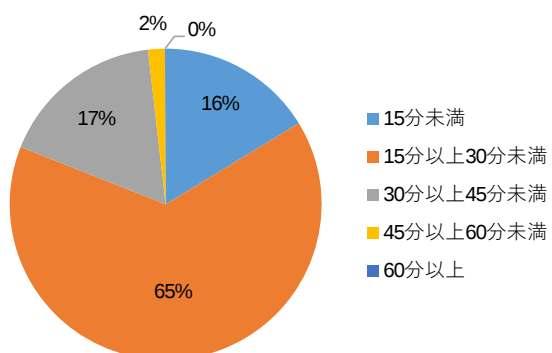


(2) 小学校の通学時間の許容範囲（1つ回答）

- ・「15分以上 30分未満」が65%で最も高く、次いで、「30分以上 45分未満」と「15分未満」がほぼ同数である。

選択肢	回答数	割合
15分未満	216	16%
15分以上 30分未満	858	65%
30分以上 45分未満	228	17%
45分以上 60分未満	23	2%
60分以上	1	0%
合計	1,326	100%

(2) 小学校の通学にかかる時間の許容範囲



問4. 中学校の配置について

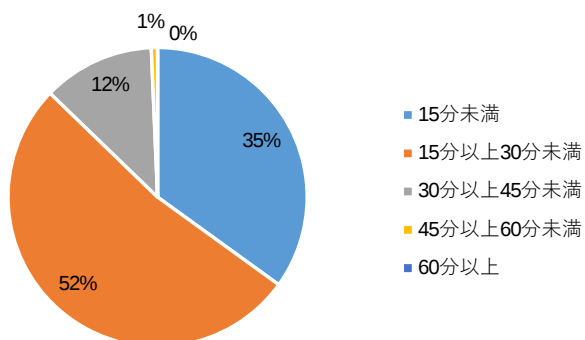
(1) 実際の中学校までの通学時間（1つ回答）

※中学校に通われている生徒がおられる方のみ

- ・「15分以上 30分未満」が52%で最も高く、次いで、「15分未満」が35%である。

選択肢	回答数	割合
15分未満	104	35%
15分以上 30分未満	157	52%
30分以上 45分未満	36	12%
45分以上 60分未満	2	1%
60分以上	0	0%
合計	299	100%

(1) 中学校までの通学時間

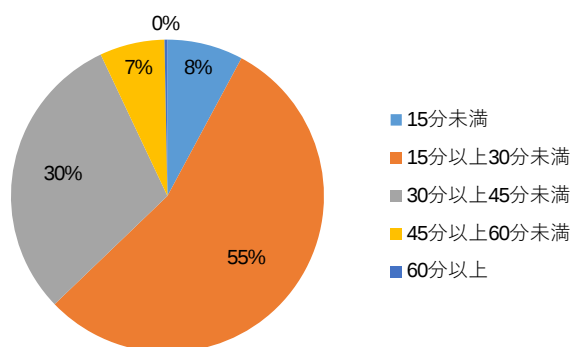


(2) 中学校の通学時間の許容範囲（1つ回答）

- ・「15 分以上 30 分未満」が 55%で最も高く、次いで、「30 分以上 45 分未満」が 30%である。

選択肢	回答数	割合
15 分未満	104	8%
15 分以上 30 分未満	729	55%
30 分以上 45 分未満	400	30%
45 分以上 60 分未満	89	7%
60 分以上	4	0%
合計	1, 326	100%

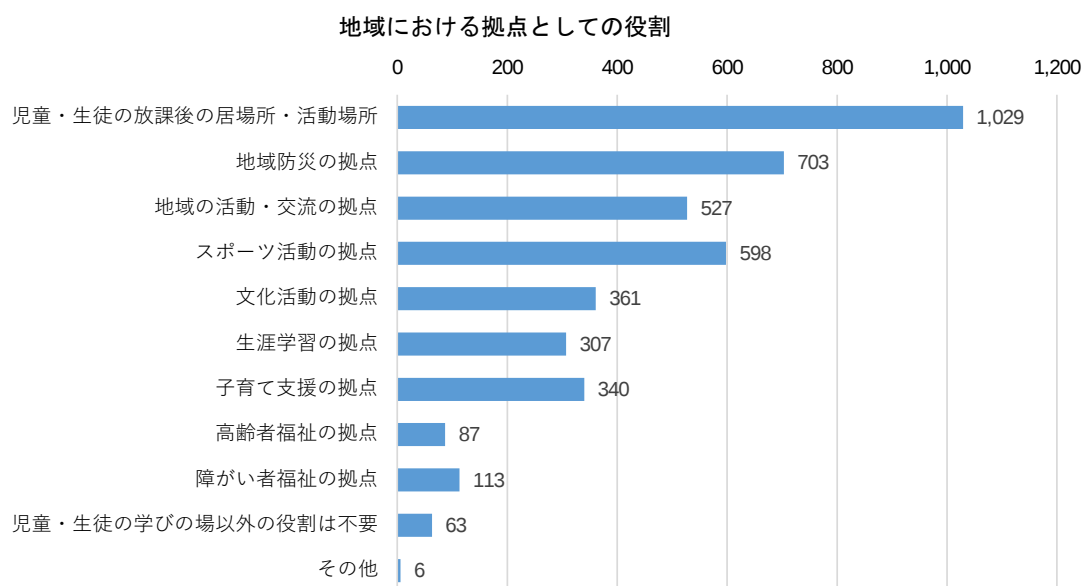
(2) 中学校の通学にかかる時間の許容範囲



問5. 地域における拠点としての役割について（複数回答可）

- ・「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」が1,029人で最も多く、次いで、「地域防災の拠点」が703人、「スポーツ活動の拠点」が598人である。

選択肢	回答数
児童・生徒の放課後の居場所・活動場所	1,029
地域防災の拠点	703
地域の活動・交流の拠点	527
スポーツ活動の拠点	598
文化活動の拠点	361
生涯学習の拠点	307
子育て支援の拠点	340
高齢者福祉の拠点	87
障がい者福祉の拠点	113
児童・生徒の学びの場以外の役割は不要	63
その他	6
合計	4,134
回答者数	1,326



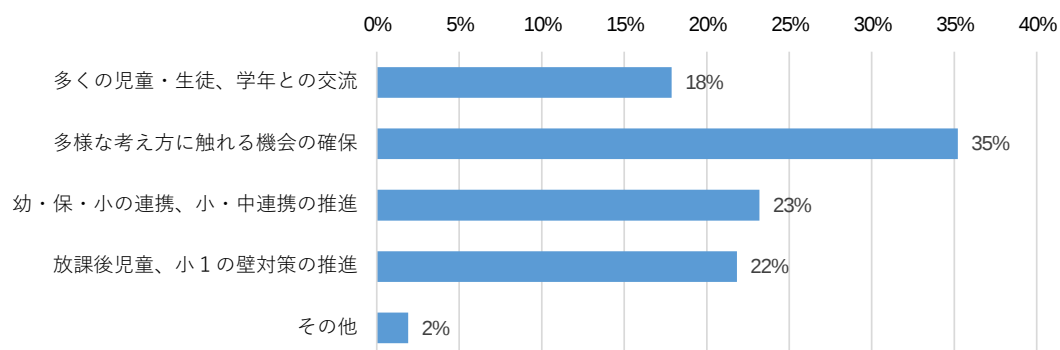
問6. 学校の適正な規模・配置について

(1) 検討にあたり配慮すべき点（1つ回答）

- ・「多様な考え方に触れる機会の確保」が35%で最も高く、次いで、「幼・保・小の連携、小・中連携の推進」が23%、「放課後児童、小1の壁対策の推進」が22%である。

選択肢	回答数	割合
多くの児童・生徒、学年との交流	235	18%
多様な考え方に触れる機会の確保	463	35%
幼・保・小の連携、小・中連携の推進	305	23%
放課後児童、小1の壁対策の推進	287	22%
その他	25	2%
合計	1,315	100%

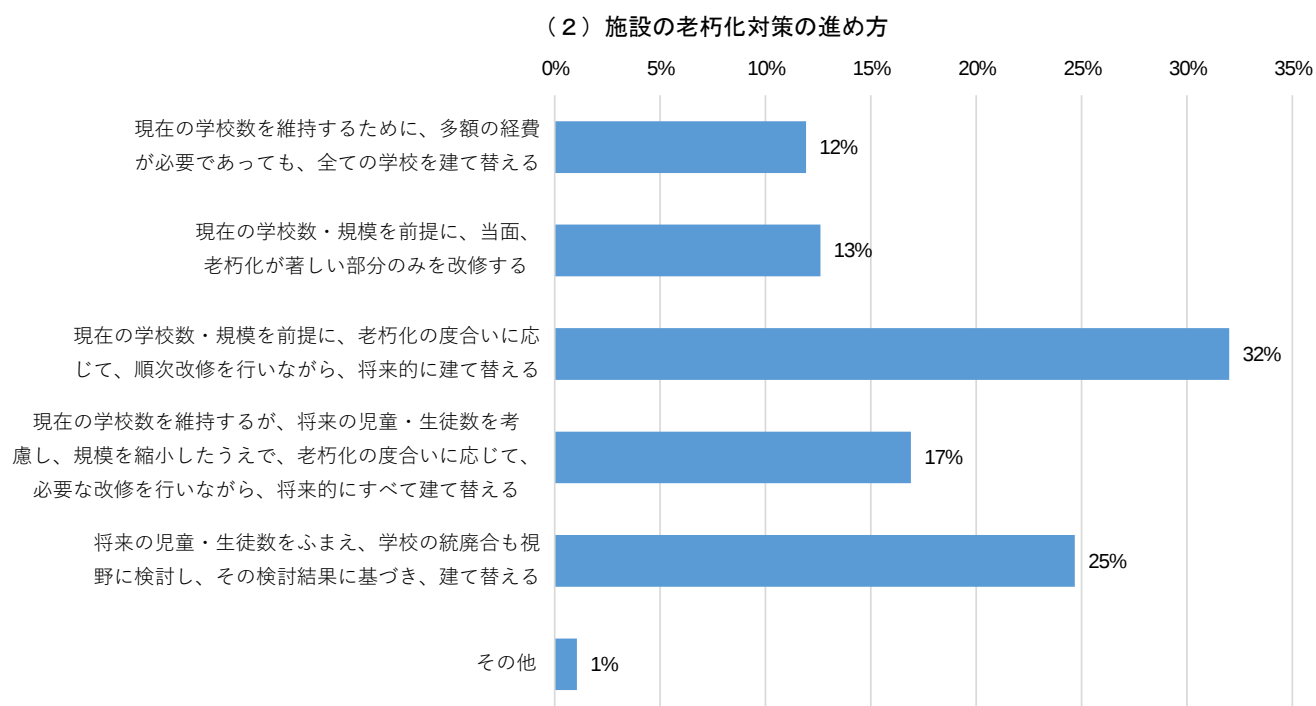
(1) 学校の適正な規模・配置の検討にあたり配慮すべき点



(2) 施設の老朽化対策の進め方 (1つ回答)

- ・「現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える」が32%で最も多く、次いで、「将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える」が25%である。

選択肢	回答数	割合
現在の学校数を維持するために、多額の経費が必要であっても、全ての学校を建て替える	158	12%
現在の学校数・規模を前提に、当面、老朽化が著しい部分のみを改修する	167	13%
現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える	435	32%
現在の学校数を維持するが、将来の児童・生徒数を考慮し、規模を縮小したうえで、老朽化の度合いに応じて、必要な改修を行いながら、将来的にすべて建て替える	224	17%
将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える	327	25%
その他	14	1%
合計	1,325	100%



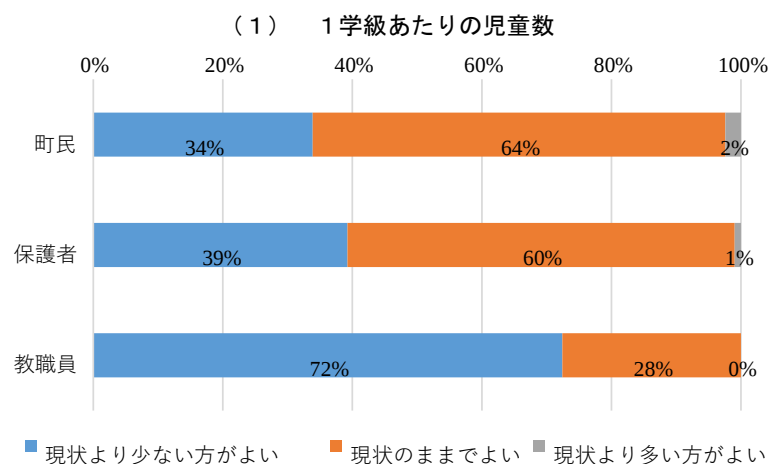
4. アンケート結果（町民、保護者、教職員別）

問1. 小学校の規模について

（1）1学級あたりの児童数について（1つ回答）

- ・町民は、「現状のままでよい」が64%で最も高い。
- ・保護者は、「現状のままでよい」が60%で最も高い。
- ・教職員は、「現状より少ない方がよい」が72%で最も高い。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
現状より少ない方がよい	42	34%	400	39%	134	72%
現状のままでよい	79	64%	610	60%	51	28%
現状より多い方がよい	3	2%	10	1%	0	0%
合計	124	100%	1,020	100%	185	100%



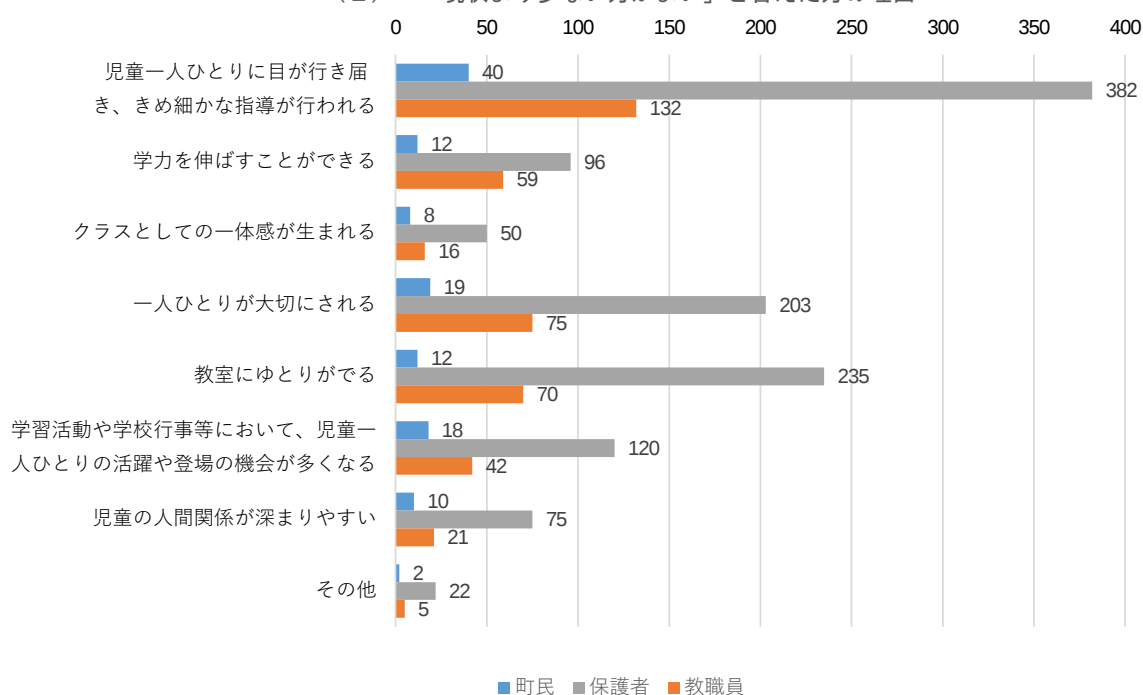
(2) (1) の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方の理由

(複数回答可)

- ・町民、保護者、教職員とも「児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われる」が最も多い。

選択肢	回答数		
	町民	保護者	教職員
児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われる	40	382	132
学力を伸ばすことができる	12	96	59
クラスとしての一体感が生まれる	8	50	16
一人ひとりが大切にされる	19	203	75
教室にゆとりがでる	12	235	70
学習活動や学校行事等において、児童一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる	18	120	42
児童の人間関係が深まりやすい	10	75	21
その他	2	22	5
合計	121	1,183	420
回答者数	42	400	134

(2) 「現状より少ない方がよい」と答えた方の理由

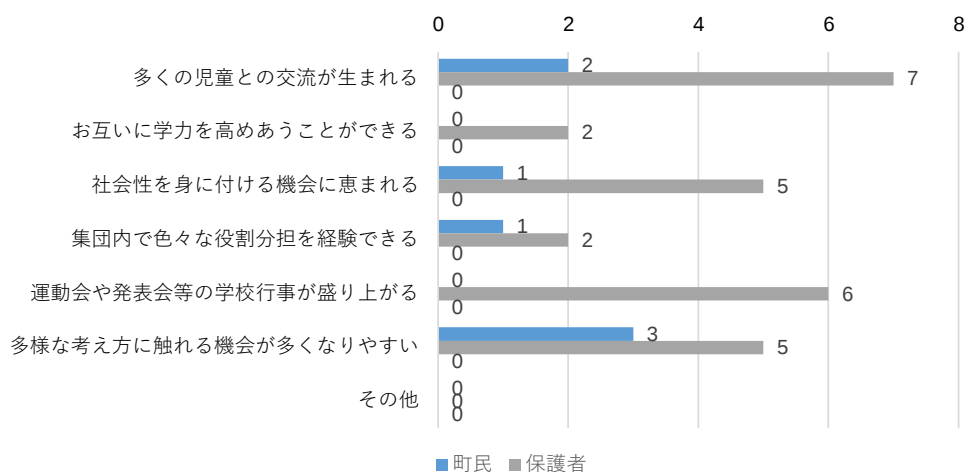


(3) (1) の回答で「現状より多い方がよい」と答えられた方の理由（複数回答可）

- ・保護者は、「多くの児童との交流が生まれる」が7人で最も多く、次いで「運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる」が6人である。

選択肢	回答数		
	町民	保護者	教職員
多くの児童との交流が生まれる	2	7	0
お互いに学力を高めあうことができる	0	2	0
社会性を身に付ける機会に恵まれる	1	5	0
集団内で色々な役割分担を経験できる	1	2	0
運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる	0	6	0
多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい	3	5	0
その他	0	0	0
合計	7	27	0
回答者数	3	10	0

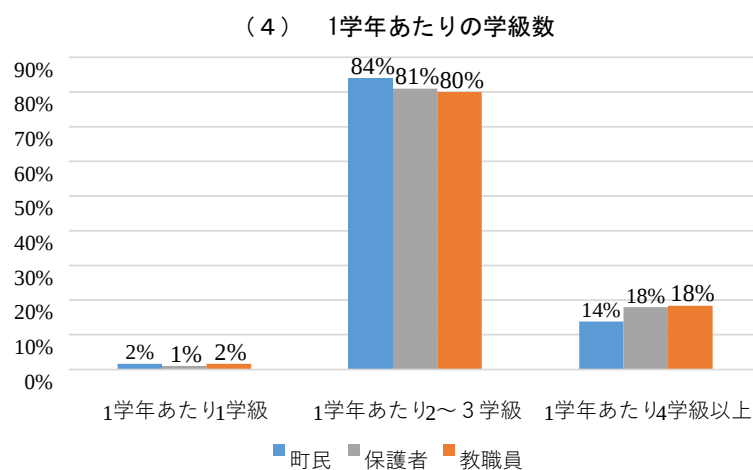
(3) 「現状より多い方がよい」と答えた方の理由



(4) 望ましい学級数（1つ回答）

- ・町民、保護者、教職員とも「1 学年あたり 2～3 学級」が 80%を超えている。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 学年あたり 1 学級	2	2%	2	1%	3	2%
1 学年あたり 2～3 学級	104	84%	835	81%	148	80%
1 学年あたり 4 学級以上	17	14%	183	18%	34	18%
合計	123	100%	1,020	100%	185	100%

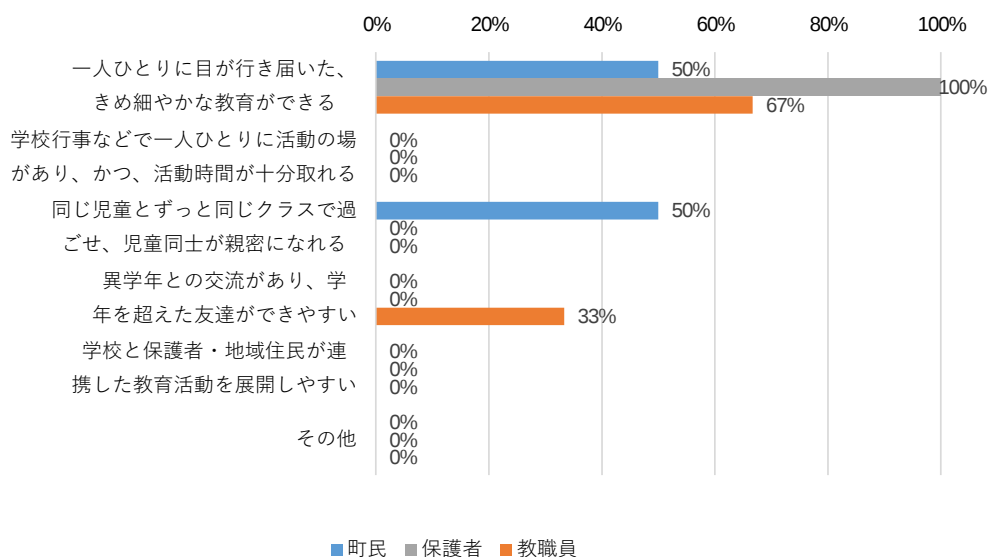


(5) (4) の回答で「1学年あたり1学級」と答えられた方の理由（1つ回答）

- ・保護者、教職員とも「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる」が最も多い。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる	1	50%	2	100%	2	67%
学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる	0	0%	0	0%	0	0%
同じ児童とずっと同じクラスで過ごせ、児童同士が親密になれる	1	50%	0	0%	0	0%
異学年との交流があり、学年を超えた友達ができやすい	0	0%	0	0%	1	33%
学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	0	0%	0	0%	0	0%
その他	0	0%	0	0%	0	0%
合計	2	100%	2	100%	3	100%

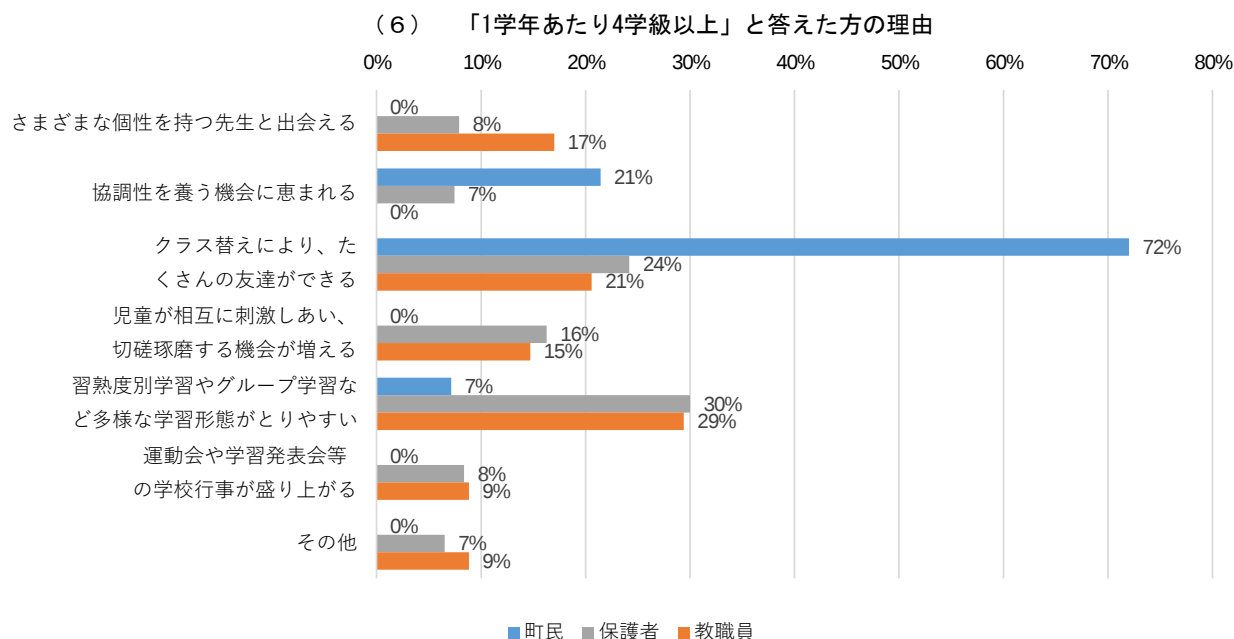
(5) 「1学年あたり1学級」と答えた方の理由



(6) (4) の回答で「1学年あたり4学級以上」と答えられた方の理由(1つ回答)

- ・町民は、「クラス替えにより、たくさんの友達ができる」が72%で最も多い。
- ・保護者は、「習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい」が30%で最も高く、次いで「クラス替えにより、たくさんの友達ができる」が24%である。
- ・教職員は、「習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい」が29%で最も高く、次いで「クラス替えにより、たくさんの友達ができる」が21%である。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
さまざまな個性を持つ先生と出会える	0	0%	17	8%	6	17%
協調性を養う機会に恵まれる	3	21%	16	7%	0	0%
クラス替えにより、たくさんの友達ができる	10	72%	52	24%	7	21%
児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える	0	0%	35	16%	5	15%
習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	1	7%	63	30%	10	29%
運動会や学習発表会等の学校行事が盛り上がる	0	0%	18	8%	3	9%
その他	0	0%	14	7%	3	9%
合計	14	100%	215	100%	34	100%

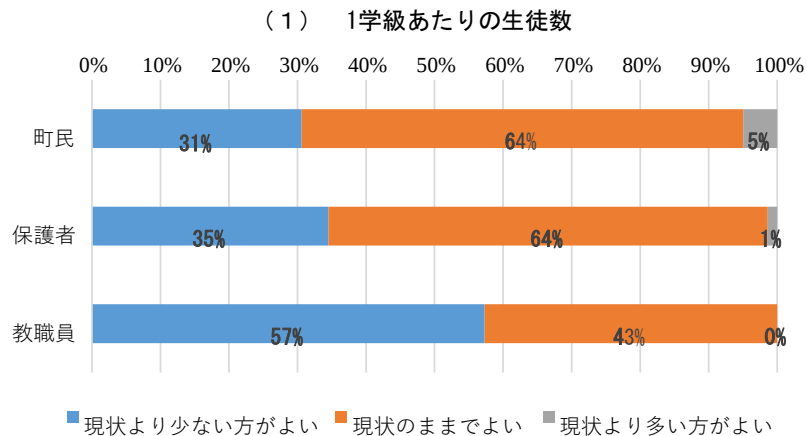


問2. 中学校の規模について

(1) 1学級あたりの生徒数について（1つ回答）

- ・町民は、「現状のままでよい」が64%で最も高く、次いで、「現状より少ない方がよい」が31%である。
- ・保護者は、「現状のままでよい」が64%で最も高く、次いで「現状より少ない方がよい」が35%である。
- ・教職員は、「現状より少ない方がよい」が57%で最も高く、次いで「現状のまま

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
現状より少ない方がよい	37	31%	352	35%	106	57%
現状のままでよい	78	64%	654	64%	79	43%
現状より多い方がよい	6	5%	14	1%	0	0%
合計	121	100%	1,020	100%	185	100%



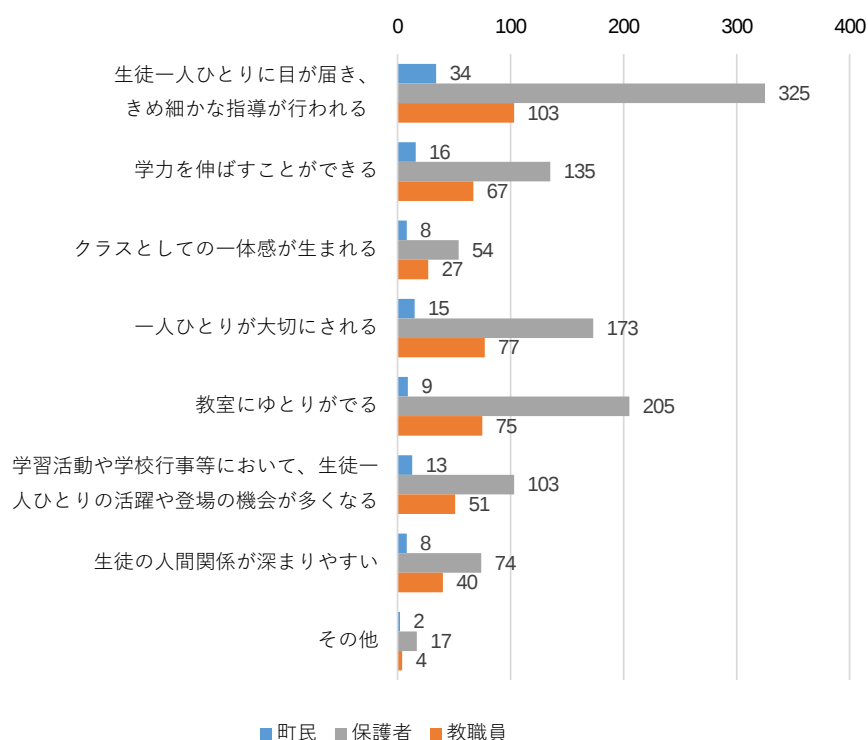
(2) (1) の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方の理由

(複数回答可)

- ・町民、保護者、教職員とも「生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる」が最も多い。

選択肢	回答数		
	町民	保護者	教職員
生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる	34	325	103
学力を伸ばすことができる	16	135	67
クラスとしての一体感が生まれる	8	54	27
一人ひとりが大切にされる	15	173	77
教室にゆとりがでる	9	205	75
学習活動や学校行事等において、生徒一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる	13	103	51
生徒の人間関係が深まりやすい	8	74	40
その他	2	17	4
合計	105	1,086	444
回答者数	37	352	106

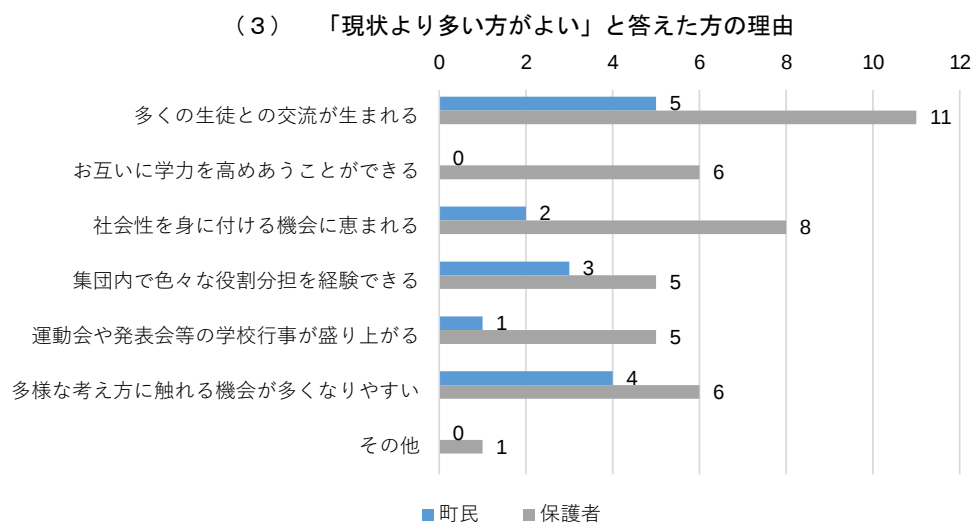
(2) 「現状より少ない方がよい」と答えた方の理由



(3) (1) の回答で「現状より多い方がよい」と答えられた方の理由（複数回答可）

・町民、保護者は、「多くの生徒との交流が生まれる」が最も多い。

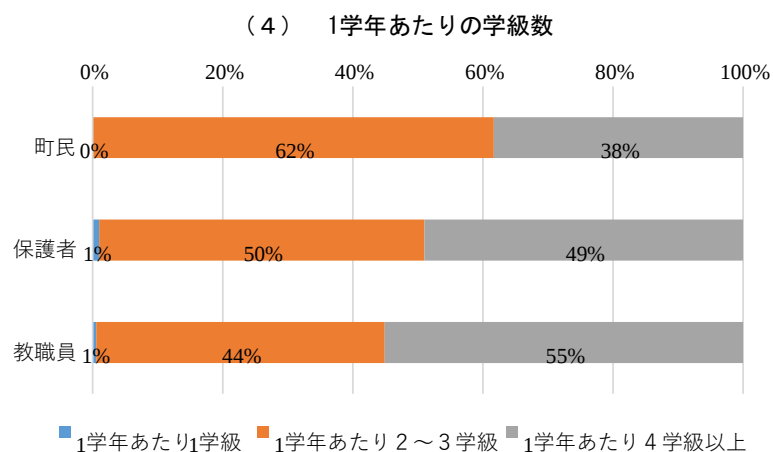
選択肢	回答数		
	町民	保護者	教職員
多くの生徒との交流が生まれる	5	11	0
お互いに学力を高めあうことができる	0	6	0
社会性を身に付ける機会に恵まれる	2	8	0
集団内で色々な役割分担を経験できる	3	5	0
運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる	1	5	0
多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい	4	6	0
その他	0	1	0
合計	15	42	0
回答者数	6	14	0



(4) 望ましい学級数 (1つ回答)

- ・町民は、「1 学年あたり 2～3 学級」が 62%で最も高い。
- ・保護者は、「1 学年あたり 2～3 学級」と「1 学年あたり 4 学級以上」がほぼ同数である。
- ・教職員は、「1 学年あたり 4 学級以上」が 55%で最も高い。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 学年あたり 1 学級	0	0%	3	1%	1	1%
1 学年あたり 2～3 学級	74	62%	510	50%	82	44%
1 学年あたり 4 学級以上	46	38%	507	49%	102	55%
合計	120	100%	1, 020	100%	185	100%

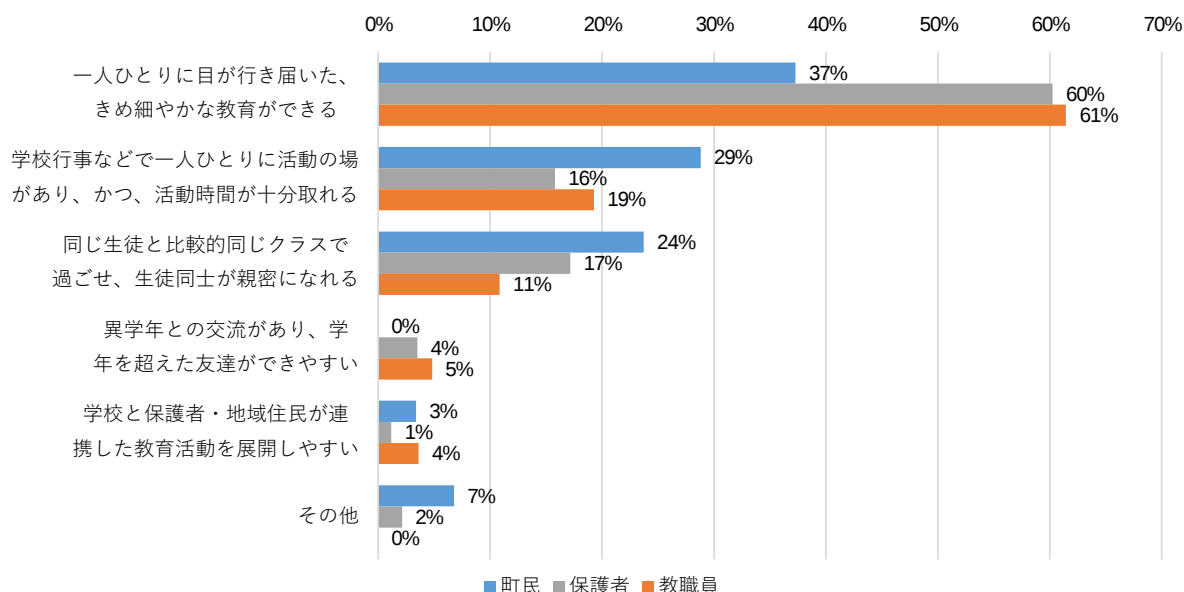


(5) (4) の回答で「1学年あたり1学級」または「1学年あたり2～3学級」と答えられた方の理由(1つ回答)

- ・町民、保護者、教職員とも「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる」が最も多く、保護者、教職員は、60%を超える。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる	22	37%	309	60%	51	61%
学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる	17	29%	81	16%	16	19%
同じ生徒と比較的同じクラスで過ごせ、生徒同士が親密になれる	14	24%	88	17%	9	11%
異学年との交流があり、学年を超えた友達ができやすい	0	0%	18	4%	4	5%
学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	2	3%	6	1%	3	4%
その他	4	7%	11	2%	0	0%
合計	59	100%	513	100%	83	100%

(5) 「1学年あたり1学級」または「1学年あたり2～3学級」と答えた方の理由

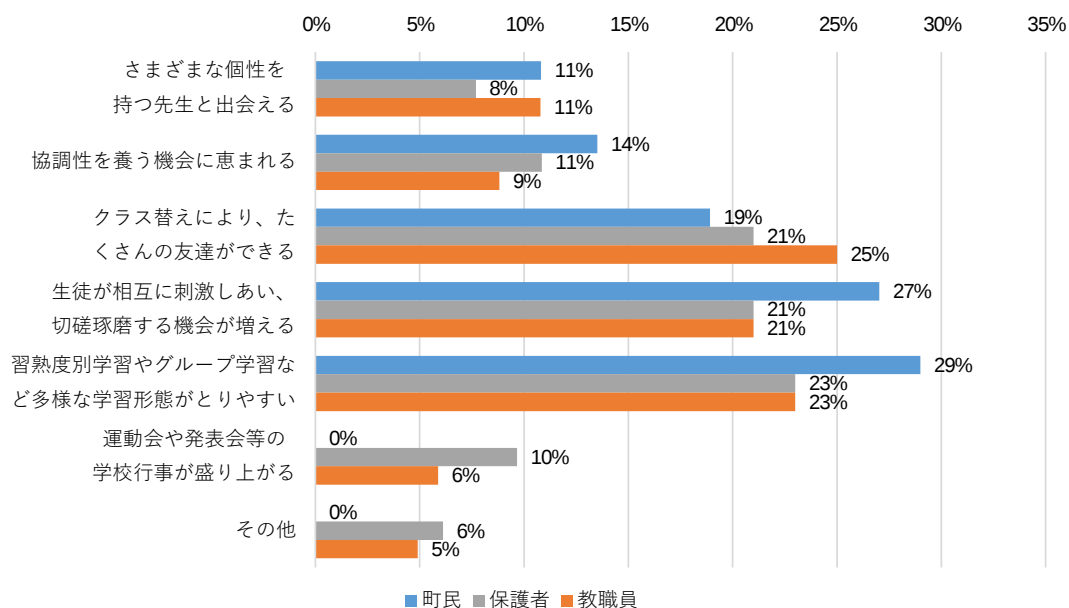


(6) (4) の回答で「1学年あたり4学級以上」と答えられた方の理由(1つ回答)

- ・町民は、「習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい」が29%で最も高い。
- ・保護者は、「習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい」が23%で最も高く、次いで、「生徒が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える」と「クラス替えにより、たくさんの友達ができる」が21%である。
- ・教職員は、「クラス替えにより、たくさんの友達ができる」が25%で最も高く、次いで、「習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい」が23%である。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
さまざまな個性を持つ先生と出会える	4	11%	39	8%	11	11%
協調性を養う機会に恵まれる	5	14%	55	11%	9	9%
クラス替えにより、たくさんの友達ができる	7	19%	106	21%	27	25%
生徒が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える	10	27%	107	21%	21	21%
習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	11	29%	120	23%	23	23%
運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる	0	0%	49	10%	6	6%
その他	0	0%	31	6%	5	5%
合計	37	100%	507	100%	102	100%

(6) 「1学年あたり4学級以上」と答えた方の理由



問3. 小学校の配置について

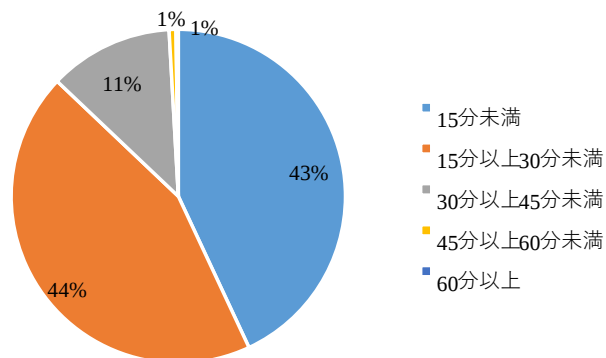
(1) 実際の小学校までの通学時間（1つ回答）

※小学校に通われている児童がおられる方のみ

- ・「15分以上30分未満」と「15分未満」がほぼ同数である。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
15分未満	-	-	197	43%	-	-
15分以上30分未満	-	-	202	44%	-	-
30分以上45分未満	-	-	49	11%	-	-
45分以上60分未満	-	-	3	1%	-	-
60分以上	-	-	1	1%	-	-
合計	-	-	452	100%	-	-

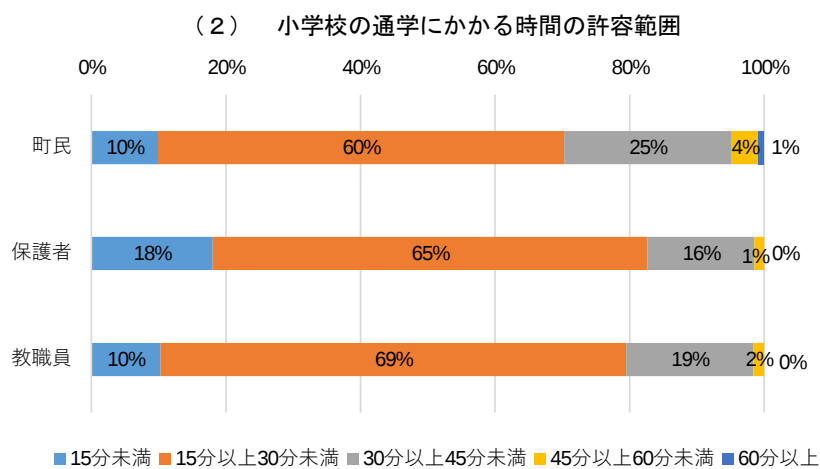
(1) 小学校までの通学時間（保護者）



(2) 小学校の通学時間の許容範囲（1つ回答）

- ・町民、保護者、教職員とも「15分以上30分未満」が60%を超えて最も高く、次いで、町民、教職員は「30分以上45分未満」が多く、保護者は「15分未満」が多い。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
15分未満	12	10%	185	18%	19	10%
15分以上30分未満	73	60%	657	65%	128	69%
30分以上45分未満	30	25%	163	16%	35	19%
45分以上60分未満	5	4%	15	1%	3	2%
60分以上	1	1%	0	0%	0	0%
合計	121	100%	1,020	100%	185	100%



問4. 中学校の配置について

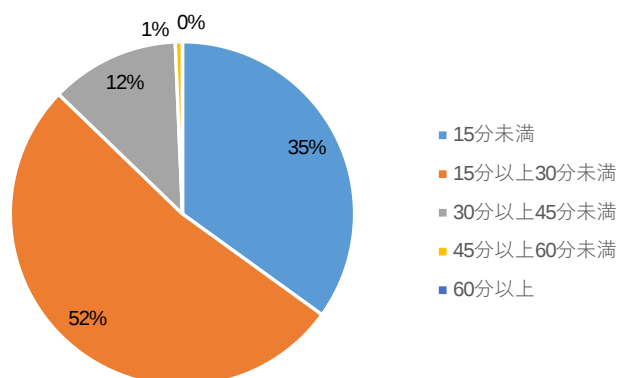
(1) 実際の中学校までの通学時間（1つ回答）

※中学校に通われている生徒がおられる方のみ

- ・「15分以上30分未満」が52%で最も高く、次いで、「15分未満」が35%である。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
15分未満	-	-	104	35%	-	-
15分以上30分未満	-	-	157	52%	-	-
30分以上45分未満	-	-	36	12%	-	-
45分以上60分未満	-	-	2	1%	-	-
60分以上	-	-	0	0%	-	-
合計	-	-	299	100%	-	-

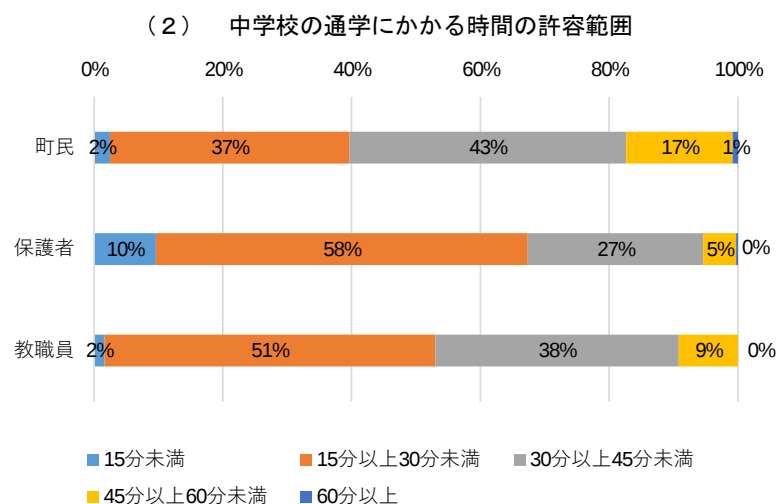
(1) 中学校までの通学時間（保護者）



(2) 中学校の通学時間の許容範囲（1つ回答）

- ・町民は、「30分以上 45分未満」が43%で最も高い。
- ・保護者、教職員とも「15分以上 30分未満」が50%を超えて最も高く、次いで、「30分以上 45分未満」が多い。

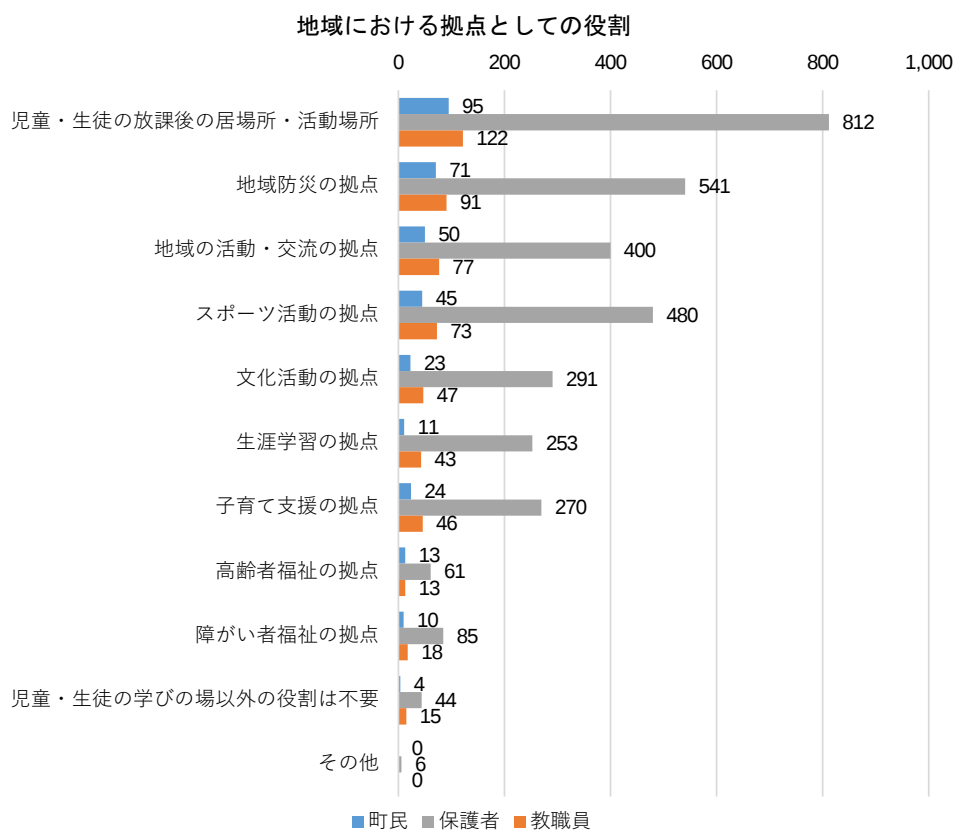
選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
15分未満	3	2%	98	10%	3	2%
15分以上 30分未満	45	37%	589	58%	95	51%
30分以上 45分未満	52	43%	278	27%	70	38%
45分以上 60分未満	20	17%	52	5%	17	9%
60分以上	1	1%	3	0%	0	0%
合計	121	100%	1,020	100%	185	100%



問5. 地域における拠点としての役割について（複数回答可）

- ・町民、保護者、教職員とも「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」が最も多い、次いで、「地域防災の拠点」が多い。

選択肢	回答数		
	町民	保護者	教職員
児童・生徒の放課後の居場所・活動場所	95	812	122
地域防災の拠点	71	541	91
地域の活動・交流の拠点	50	400	77
スポーツ活動の拠点	45	480	73
文化活動の拠点	23	291	47
生涯学習の拠点	11	253	43
子育て支援の拠点	24	270	46
高齢者福祉の拠点	13	61	13
障がい者福祉の拠点	10	85	18
児童・生徒の学びの場以外の役割は不要	4	44	15
その他	0	6	0
合計	346	3,243	545
回答者数	121	1,020	185



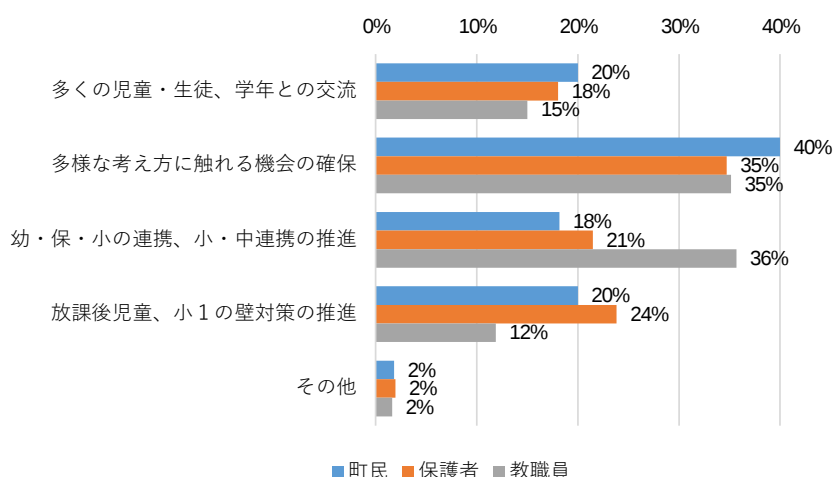
問6. 学校の適正な規模・配置について

(1) 検討にあたり配慮すべき点 (1つ回答)

- ・町民は、「多様な考え方に触れる機会の確保」が40%で最も高い。
- ・保護者は、「多様な考え方に触れる機会の確保」が35%で最も高く、次いで「放課後児童、小1の壁対策の推進」が24%である。
- ・教職員は、「幼・保・小の連携、小・中連携の推進」と「多様な考え方に触れる機会の確保」がほぼ同数である。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
多くの児童・生徒、学年との交流	22	20%	184	18%	29	15%
多様な考え方に触れる機会の確保	44	40%	354	35%	65	35%
幼・保・小の連携、小・中連携の推進	20	18%	219	21%	66	36%
放課後児童、小1の壁対策の推進	22	20%	243	24%	22	12%
その他	2	2%	20	2%	3	2%
合計	110	100%	1,020	100%	185	100%

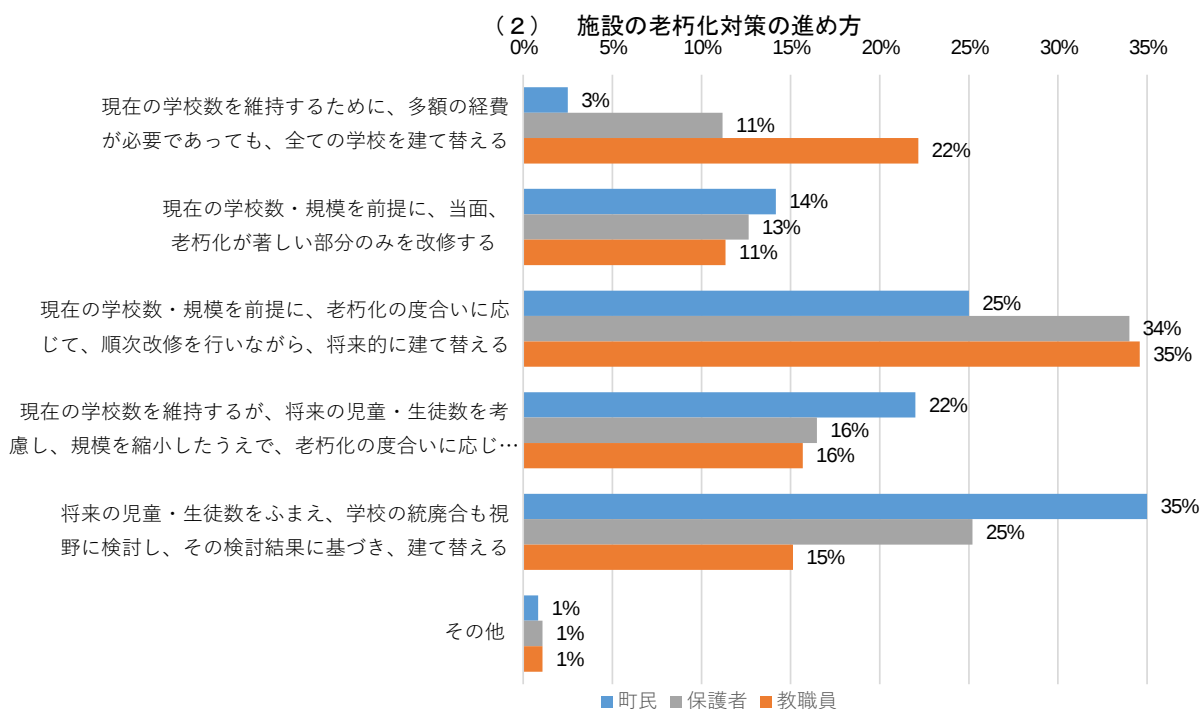
(1) 学校の適正な規模・配置の検討にあたり配慮すべき点



(2) 施設の老朽化対策の進め方（1つ回答）

- ・町民は、「将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える」が35%で最も高い。
- ・保護者、教職員は、「現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える」が約35%で最も高い。

選択肢	町民		保護者		教職員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
現在の学校数を維持するために、多額の経費が必要であっても、全ての学校を建て替える	3	3%	114	11%	41	22%
現在の学校数・規模を前提に、当面、老朽化が著しい部分のみを改修する	17	14%	129	13%	21	11%
現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える	30	25%	341	34%	64	35%
現在の学校数を維持するが、将来の児童・生徒数を考慮し、規模を縮小したうえで、老朽化の度合いに応じて、必要な改修を行いながら、将来的にすべて建て替える	27	22%	168	16%	29	16%
将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える	42	35%	257	25%	28	15%
その他	1	1%	11	1%	2	1%
合計	120	100%	1,020	100%	185	100%



5. 各設問のその他の意見

問1 小学校の規模

(2) 1学級あたりの児童数の回答で「現状より少ない方がよい」とした理由

【町民】

- ・先生方の負担軽減になる。
- ・学校の生活で、関わる人間を減らせる方が良い。

【保護者】

- ・先生方の負担を減らすため。先生方にゆとりがなければ子供たちにとってマイナスになる。
- ・個別的な配慮が可能になる。
- ・提出物の管理や懇談、保護者対応にゆとりを持って行える。
- ・フォローが必要な児童が増えているので、少ない方がいいと思います。
- ・少ない方が先生の仕事による効果が最適かと思いました。
- ・児童数が多いと、私物が教室内に収まりきらず、参観時も中に入れない。子供たちが起立したり、すれ違うスペースもなく、先生も指導しにくいように見えました。
- ・学級崩壊は、先生が見きれていないのも原因だと思います。
- ・1クラス 25～30 名程度の人数が、子ども一人ひとりにも目が行き届き、集団としての活動も行えるのではないかと思います。
- ・意見を表明する機会が増える。
- ・トラブル発生時に早期に発見でき解決もできやすくなると思う。

【教職員】

- ・教室に人が多いと刺激に敏感な児童はより多くの刺激を受けることになるので、少ない方が少ない刺激の中で学習できる。
- ・教師の負担軽減になる。
- ・1クラス 25～30 名程度の人数が、子ども一人ひとりにも目が行き届き、集団としての活動も行えるのではないかと思います。
- ・提出物の管理や懇談、保護者対応にゆとりを持って行える。雑務が多くなり、勤務時間内に業務が終わらなくなる。

(3) 1学級あたりの児童数の回答で「現状より多い方がよい」とした理由

【町民】

その他の回答なし

【保護者】

その他の回答なし

【教職員】

その他の回答なし

(5) 望ましいと思われる学級数で「1学年あたり1学級」とした理由

【町民】

その他の回答なし

【保護者】

その他の回答なし

【教職員】

その他の回答なし

(6) 望ましいと思われる学級数で「1学年あたり4学級以上」とした理由

【町民】

その他の回答なし

【保護者】

- ・学級数が多くなると、1クラスあたりの人数が少なり、一人ひとりにきめ細やかな指導ができることにつながる。
- ・現在の25名4クラスがちょうどいい。
- ・色んな事を抱えている子どもが増えているため、学級人数を減らせば、きめ細かい指導が出来る。

- ・学級数を考えるのではなく、クラス人数で考えて欲しい。現在1学年に100人以上在籍しているが、3クラス編成ではクラスも狭くケガも多いように思う。教師の負担も大きいように感じる。また、3クラス以上あれば、クラスでいじめや問題などがあった場合、別々のクラスにできる。
- ・斑鳩町の児童数は他市町の小学校に比べ多いため、児童一人一人に目を届くようにするのに1、2学年と同様に他学年も4学級あってもよい。
- ・4学級にして、少人数学級編制にしてほしい。
- ・低学年時は1クラスあたりの子どもの数が少ない方が良く考えると、必然的に学級数が増える。
- ・先生が目が行き届きやすいため。

【教職員】

- ・本校は1学年が110人前後のため、4学級にすることで1学級30人をやや下回る児童数にできるため。
- ・1クラスの人数が減る分、担任が目が行き届きやすくなりそうだから。
- ・1クラスを少なくすると、クラス数が多くなる。

問2 中学校の規模

(2) 1学級あたりの生徒数の回答で「現状より少ない方がよい」とした理由

【町民】

その他の意見なし

【保護者】

- ・教師の対応力低下が著しいため。
- ・昨年、先生の人数が足りないとの事で40人学級でした。テストの際は教卓を廊下に出さないと机のスペースが確保できず、普段も2人ずつ机を付けても一番後は椅子をひくことができない状況でした。鞆を置く場所も足りず、机の間を歩くスペースもなく、本当に酷い学習環境でした。
- ・個別的な配慮が可能になる。
- ・現状「町独自の35人学級」になっていないのは何故ですか？40人は多すぎる。落ち着かない。
- ・教員の負担軽減。

- ・トラブル発生時に早期発見早期解決が出来るから。
- ・感染症の対策になる。
- ・現在一年生だけ3クラス(各41人)です。他学年とクラス数が違うため体育祭等に不公平感があつた。
- ・指導する先生が心にゆとりを持てる。
- ・生徒の監視をするためにはとにかく人数が少ない方が良い。
- ・様々な社会問題の話し合いや授業についてもディスカッションしながら進めた方がよいとおもうので、少人数がよいと思う。

【教職員】

- ・提出物の管理、懇談、保護者対応の時間が軽減されるから、雑務が減り勤務時間内に退勤できる可能性が上がるから。
- ・感染症の蔓延が抑えられる。
- ・生徒の悩みや困りごとなどの気づきにつながる。

(3) 1学級あたりの生徒数の回答で「現状より多い方がよい」とした理由

【町民】

その他の回答なし

【保護者】

その他の意見なし

【教職員】

その他の回答なし

(5) 望ましいと思われる学級数で「1学年あたり1学級」または「1学年あたり2～3学級」とした理由

【町民】

- ・学級数を増やすと先生も必要になる。先生の数に余力があれば支援員にまわるなどフリーの先生が今は必要だと思います。
- ・学校行事でまとまりやすい学級数である。

- ・このくらいであれば、クラス替えや教員の確保もできそうで、適当であると思う。

【保護者】

- ・クラス替えが可能だから。
- ・いじめや、事故等、危険への監視に力を入れて欲しいから。
- ・分けるほどの子供と教員がいるのか。
- ・クラス替えができるようにしないと気の合わない人と何年も同じクラスはしんどい。
- ・多感な時なので、難しいですが、勉強が中心になってくるので人数が多ければ学級数が多くていいが、複数学級であれば数は問わない。
- ・少人数過ぎると、イジメが起きやすい、逃げ場がない。多いとクラス内で喧嘩してもの違うグループに入るなど逃げ場が出来やすい。

【教職員】

その他の回答なし

(6) 望ましいと思われる学級数で「1学年あたり4学級以上」とした理由

【町民】

その他の回答なし

【保護者】

- ・3学級以下だと、1学級の人数が多くなり過ぎるから。
- ・様々な個性を持つ生徒と出会える。
- ・クラスの人数は小学校と変わらずと考えるとクラス数が多くなると思ったので。
- ・1人1人きめ細かな指導ができる。
- ・人間関係のトラブル時にクラスが多いほどクラス替え時に逃げ道や心の負担を減らせる。
- ・手厚く指導してもらいたい。
- ・教師の対応力低下が著しいため。
- ・確実に、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ってほしい。

- ・高校生になるとクラスが増えるので、その前段階として4クラス～5クラスぐらいあってもよいと思う。
- ・コスト削減になると思われる。
- ・近年の社会多様化に学校における教育システムが更新されておらず、担任の先生の負担が大きくなる。今の教育システムをやっていくなら、単純に1学級あたりの人数を減らして、きちんと生徒と向き合える時間をつくってあげた方がよいと思う。
- ・少人数学級編制のため。
- ・閉塞感がなくて良い。
- ・斑鳩町の人口を考えると4学級以上になりそうだから。

【教職員】

- ・1学年に国語・数学・理科・社会・英語の教員が所属できる。学年渡りで教える教員を少なくする。教師の負担を減らせる。
- ・さまざまな個性との関わりを通した集団活動が行いやすいと考えるから。
- ・学校にいる教員数が多い方が、学校としてできることが増える
- ・1クラスを少なくするためには、クラス数が多くなることになる。

問5 地域における拠点としての役割について

(1) 小・中学校がこれからの地域における拠点として担う役割の中で、重要だと考えるもの

【町民】

その他の回答なし

【保護者】

- ・子どもたちの学びの場に影響がないことを前提に、常に部外者・不審者が入れない方が安心できる。
- ・建物としての有効利用としては挙げられた選択肢含む様々なことに利用できるとよいと思いますが、それによる教職員の負担増がないようにしてほしい。
- ・人間関係を経験できる場所。子どもは特性を持っていて、コミュニケーションが取りづらい状況です。それぞれの個性を認め合う環境が理想です。

- ・コミュニティ・スクールの拠点、アントレプレナー教育・起業家支援の拠点など、多くの子どもたちの発見や関わりがある場所になればよい。
- ・周囲と交流が少ない人がつまづいたときに立ち戻れる拠点として存在しているとい

【教職員】

その他の回答なし

問6 学校の適正な規模・配置について

(1) 検討にあたっては、特にどのような点に配慮すべきか

【町民】

- ・児童、生徒の安全、自由に配慮。
- ・学校は学校機能だけでミニマムの設備とし、きっちり設備のメンテナンスをするのが好ましい。

【保護者】

- ・通級、別室など多様な学びの場の確保や専門家の配置。
- ・障がいを持っている子どもの配慮。
- ・朝7時頃から体育館などで子供を預かってもらえること。
- ・教員の負担軽減策。健全な心身で子供たちに接してもらえば子供たちにとって有益です。先生方のやりがい搾取にならないよう、先生方のための多方面の専門家(スクールサポート)を配置してほしい。
- ・猛暑に対応できるよう、その期間の制服・制帽の運用を見直してほしい。
- ・設備の更新、老朽化対策、常に改善策を講じる姿勢、DX化、PTA活動の見直し、効率化。
- ・充実した教育。
- ・不登校児童、生徒支援(まずは在籍児童、生徒の支援を考える必要があるのではないで

- しょうか)。
- ・小学校、中学校それぞれの特性や成長のステップは大切にしてほしい。
- ・幼稚園→小学校支援学級→中学校支援学級がスムーズに進むような連携。

- ・高学年になると学童保育がなく、1人で留守番が不安な子どももいるため、仕事を時短に変えたり、転職したので生活が苦しくなったという話を聞くことがある。高学年の子ども達の居場所もあればいい。
- ・先生方の意識改革。
- ・多様な考え方や文化に触れる機会。
- ・副担任や英語の先生が副担任に就くことの必要性(英語の日常化や児童のリラックス、担任の業務分担・軽減)。
- ・初めて入学するときに、何が最適でそのために何が必要なのかがわからないので、俯瞰して見れるような仕組みがあればいい。

【教職員】

- ・十分な教員の確保によって行われる細かな生徒対応。
- ・施設の老朽化。

(2) 学校施設の老朽化がすすんでいる現状をふまえ、今後どのような考え方で整備を進めていく必要があると思われるか

【町民】

- ・とにかく洗面/トイレ/更衣室を定期的にリフォームして衛生的にすれば、設備を程度よく維持できると思います。米国の小中学校を参考に。

【保護者】

- ・トイレや給食を作る場所など衛生面の優先順位が高いところから改修して行く
- ・将来的なものもあるだろうが、トイレの改修(体育館トイレの洋式化など)は、不可欠。
- ・統合を視野に入れるが、修復で利用できる学校を残す。無理なら建て替え。
- ・小中学校の統合。通うのに遠くなりすぎない場所になるよう、2箇所くらいにして建て替える
- ・王寺町のような小中一貫校にする。小学校の教師が中学校の部活を見たり、中学の教師が小学校に来て授業をして交流したり、中学の壁がなくなる。
- ・学校数は維持。基本は長寿命化改修が望ましいが、老朽化が進み過ぎているなら、建て替えの方が現在の教育現場に合わせた学校整備ができると思う。

- ・将来の児童・生徒数を考慮し、現在の学校数を維持するか統廃合するか検討した上で、老朽化の度合いと改修と建て替えの費用も検討して、それに応じて必要な改修するか将来的にすべて建て替えるのかをきめる。
- ・既に建て替え要望が多いと聞いたことがあります。個人的には統廃合計画に基づく建て替えが望ましいと思いますが、その判断時期とのバランスが大事かと思います。長期間検討して現在の子供達の不利益とならないことを望みます。
- ・統廃合が将来的に現実的だが、その場合、特に小学校はスクールバスなどを運行すべき。
- ・子供が財産と言う考え方がないから、将来と言う発想になる。将来はいつを指しているのか。
- ・将来の児童・生徒数をふまえ、最適な規模と配置を考えて建替えを行うことができればいいなと思います。土地の確保が難しいとは思いますが。

【教職員】

その他の意見なし

6. 自由意見のまとめ

(1) 教育環境の改善について

GIGA スクールの推進や幼小中の連携、義務教育学校、コミュニティ・スクール、イェナプラン、少人数、習熟度別授業等の新たな教育手法を取り入れ、子どもたちが深い学びが可能な教育環境づくりを希望します。

(2) 学級の規模について

1 学級の人数が多いと、教室が狭く、授業に集中できない児童生徒もいます。先生も児童生徒が多いと全員に目が行き届かないなど、デメリットが多いように思います。

(3) 学校区について

学校により校風が異なると思うので、校区を変更することに不安を感じます。校区を変更せずに、校区の境界近くに住んでいる児童生徒は、学校選択制の導入等の対策を望みます。

(4) 統廃合について

児童生徒数が減少するならば、王寺町のように義務教育学校への再編を検討して、経費を抑えるような対策を講じてほしいが、その前に、より魅力的な町作り、子育て支援策を実施し、人口の規模を維持し続けるように対策をしてほしいです。

(5) 校舎の老朽化について

とにかく校舎の雨漏りやトイレ等の老朽化が激しいため、児童生徒が安全に勉強できる環境ではないですので、早急に改修を実施してほしいです。学校は、避難所にもなっていますので、対策を早急にしてほしいです。

(6) 耐震性の不安について

老朽化や過去の地震でひび割れが生じている箇所があるなど、災害時の安全性に不安が大きいです。建て直しが必要だと思います。

(7) トイレの衛生問題について

校舎の建て替えも必要であると思いますが、早急にトイレを改修して、児童生徒が気持ちよく学校生活を送れるようにしてほしいです。

(8) 教員の負担の軽減について

1 学級 40 人の児童生徒では、1 人の教員では負担が大きすぎるため、副担任や教員をサポートする専門家の配置等を行い、教員が教育に専念できる環境を整える必要があると思います。また、児童生徒の安全面や学力の向上のためにも教員の増員が必要であると思います。

(9) 通学バスの導入について

統廃合を実施した結果、通学距離が遠くなるのであれば、通学バスの導入を検討する必要があると思います。

(10) 通学路の整備について

学校内の環境を整備することも必要であるが、通学路の整備も同時に改善してほしいです。特に、歩道がなく、ガードレールもない路肩を歩かなければならない通学路もあります。

(11) 自転車通学の許可について

通学が遠い児童生徒に関しては、熱中症防止等を考慮して、自転車通学や 30 分以上かかる児童の場合の送迎等を許可してほしいです。

(12) 地域との連携について

学校が地域と協力し、開かれた学校を目指し、地域の方々の活動拠点として有効に活用することを望みます。

しかし、その一方で、学校は児童生徒の学びや活動の場のための施設であり、地域の方々に開放したことにより児童生徒の活用が制限されないように配慮する必要があると思います。

(13) 学童について

放課後の子どもの居場所として、学童保育の充実を検討してほしいです。具体的には、教員による目の行き届いた環境、運営時間の延長、給食の提供等です。また、民間学童の駅前誘致を検討してほしいです。

(14) 制服の見直しについて

昨今の温暖化への対策として、小学校の T シャツ・ハーフパンツ、機能的な帽子等への変更を検討してほしいです。

未来の斑鳩町立小・中学校のあり方に関するアンケート調査
～みなさまのご意見をお聞かせください～

斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会
委員長 安井 義和

斑鳩町においては、学校施設の老朽化をふまえ、今後見込まれる児童・生徒数の減少や学校施設が持つ多様な機能に留意しながら、将来を見据えた学校施設の整備が求められています。

本委員会は、こうした状況をふまえ、未来の斑鳩町を担う子ども達のがのびやかに、そして楽しい学校生活を送ることができるよう、町立学校の適正規模・配置に係る構想について検討するため、町教育委員会において設置され、去る8月20日に諮問を受けたところです。

今後、構想の取りまとめに向け、地域・保護者の代表者、学校関係者や有識者からなる委員により調査・審議をすすめてまいります。その際には、まず何よりも、保護者、教職員の皆様をはじめ、地域の皆様から、学校規模、配置に大きく影響を与えることとなる1学級あたりの児童生徒数や学級数などに関するご意見をお伺いし、そのご意見をふまえ、本委員会で議論をすすめてまいらなければならないと考え、本アンケート調査を実施することと致しました。

この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、この調査の回答は、集計後に、様々な調査・分析を行うために、全て統計的に処理し、上記の目的以外に使用することはありません。

また、この調査は、町内にお住まいの18歳以上の方の中から、男性・女性各150名、合わせて300名の方を無作為に選ばせていただきました。

※無記名でお答えいただきますので、回答内容について、あなた自身にご迷惑をおかけすることはありません。

【 裏面をご覧ください 】

～アンケート調査の回答について～

●回答期限：11月29日（金）まで

●回答方法：インターネット（二次元バーコード・URL）による回答を基本とし

ております。この方法によるご回答が難しい場合は、アンケート調査用紙を同封の封筒に入れ、令和6年11月27日（水）までにポストに入れてください。



切手はいりません。また差出人の記載も不要です。

※アンケート所要時間：概ね5分程度

URL (<https://forms.office.com/r/bNL7ZZbnTx?origin=lpLink>)

【アンケートに関するお問い合わせ先】 斑鳩町役場教育委員会事務局 総務課

TEL：0745-74-1123

e-mail：kyouisoumu@town.ikaruga.nara.jp

【参 考】児童生徒数及び学級数の予測、小中学校の建築物の状況について

(1) 児童生徒数及び学級数の予測について

令和2年の国勢調査から、国立社会保障・人口問題研究所が推計した結果に基づく児童生徒数の将来予測は、約40年後の令和47年度では、令和6年度2,295人に対し、約7割となる1,628人、中間年の令和27年度では約8割の1,911人となっています。

また、現行の1学級あたりの学級編制基準に基づく学級数は、令和47年度、令和27年度とも、小学校では、各学年2～3学級、中学校では各学年3学級となっています。

(2) 小中学校の建築物の状況について

いずれの棟も耐震基準は満たしていますが、平均築年数が約47年を経過し、計画的整備が求められています。

－ 詳しくは、次の資料をご参照いただきますようお願いいたします －

○ 斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会について



斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会

検索

URL <https://www.town.ikaruga.nara.jp/0000002892.html>

○ 児童生徒数及び学級数の予測、小中学校の建築物の状況について



URL [https://www.town.ikaruga.nara.jp/cmsfiles/contents/0000002/2892/\[4\]R5chosakekka.pdf](https://www.town.ikaruga.nara.jp/cmsfiles/contents/0000002/2892/[4]R5chosakekka.pdf)

アンケート調査用紙

ご回答いただく方ご自身について

町丁名（例：法隆寺西3丁目）をご記入ください。

お住まい	斑鳩町
------	-----

問1. 小学校の規模についてご回答ください

- (1) 小学校の1学級あたりの児童数は、町独自の少人数学級編制で、「小学校1・2年生は1学級30人、3年生～6年生は1学級35人」としていますが、国の基準によると「小学校5年生までは1学級35人、6年生は1学級40人を標準とする」となっています。1学級あたりの児童数について、どう思われるかご回答ください。(1つに○)

1. 現状より少ない方がよい
2. 現状のままでよい
3. 現状より多い方がよい

- (2) (1) の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 児童一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる
2. 学力を伸ばすことができる
3. クラスとしての一体感が生まれる
4. 一人ひとりが大切にされる
5. 教室にゆとりがでる
6. 学習活動や学校行事等において、児童一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる
7. 児童の人間関係が深まりやすい
8. その他（ ）

(3) (1) の回答で、「現状より多い方がいい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 多くの児童との交流が生まれる
2. お互いに学力を高めあうことができる
3. 社会性を身に付ける機会に恵まれる
4. 集団内で色々な役割分担を経験できる
5. 運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる
6. 多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい
7. その他 ()

(4) 小学校の学級数は、国の基準によると「1 学年あたり 2～3 学級（全校で 12～18 学級）を標準とする」（なお、複式学級を解消するためには少なくとも 1 学年 1 学級以上（全校で 6 学級以上）であることが必要となります。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには、1 学年 2 学級以上（全校で 12 学級以上）あることが望ましい）となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われるかご回答ください。（1 つに○）

1. 1 学年あたり 1 学級
2. 1 学年あたり 2～3 学級
3. 1 学年あたり 4 学級以上

(5) (4) の回答で「1 学年あたり 1 学級」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。（1 つに○）

1. 一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる
2. 学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる
3. 同じ児童とずっと同じクラスで過ごせ、児童同士が親密になれる
4. 異学年との交流があり、学年を超えた友達がしやすい
5. 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい
6. その他 ()

(6) (4) の回答で「1 学年あたり4 学級以上」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。(1 つに○)

1. さまざまな個性を持つ先生と出会える
2. 協調性を養う機会に恵まれる
3. クラス替えにより、たくさんの友達ができる
4. 児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える
5. 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい
6. 運動会や学習発表会等の学校行事が盛り上がる
7. その他 ()

問2. 中学校の規模についてご回答ください

(1) 中学校の1 学級あたりの生徒数は、町独自の少人数学級編制で、「1 学級 35 人」としていますが、国の基準によると「1 学級 40 人を標準とする」となっています。1 学級あたりの生徒数について、どう思われるかご回答ください。(1 つに○)

1. 現状より少ない方がよい
2. 現状のままでよい
3. 現状より多い方がよい

(2) (1) の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる
2. 学力を伸ばすことができる
3. クラスとしての一体感が生まれる
4. 一人ひとりが大切にされる
5. 教室にゆとりがでる
6. 学習活動や学校行事等において、生徒一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる
7. 生徒の人間関係が深まりやすい
8. その他 ()

(3) (1) の回答で、「現状より多い方がいい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 多くの生徒との交流が生まれる
2. お互いに学力を高めあうことができる
3. 社会性を身に付ける機会に恵まれる
4. 集団内で色々な役割分担を経験できる
5. 運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる
6. 多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい
7. その他 ()

(4) 中学校の学級数は、国の基準によると「1 学年あたり 4～6 学級（全校で 12～18 学級）を標準とする（なお、全学年でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能としたり、同学年に複数教員を配置するためには、少なくとも 1 学年 2 学級以上（全校で 6 学級以上）が必要となります。また、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも 9 学級以上を確保することが望ましい）」となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われるかご回答ください。（1 つに○）

1. 1 学年あたり 1 学級
2. 1 学年あたり 2～3 学級
3. 1 学年あたり 4 学級以上

(5) (4) の回答で「1 学年あたり 1 学級」または「1 学年あたり 2～3 学級」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。（1 つに○）

1. 一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる
2. 学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる
3. 同じ生徒と比較的同じクラスで過ごせ、生徒同士が親密になれる
4. 異学年との交流があり、学年を超えた友達ができやすい
5. 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい
6. その他 ()

(6) (4) の回答で「1 学年あたり4 学級以上」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。(1 つに○)

1. さまざまな個性を持つ先生と出会える
2. 協調性を養う機会に恵まれる
3. クラス替えにより、たくさんの友達ができる
4. 生徒が相互に刺激あい、切磋琢磨する機会が増える
5. 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい
6. 運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる
7. その他 ()

問3. 小学校の配置についてご回答ください

(1) 小学校の通学距離は、国の基準によると「おおむね4 キロメートル以内であること（おおむね1 時間以内）」となっていますが、どの程度の時間までが許容範囲と思われるかご回答ください。(1 つに○)

1. 15 分未満
2. 15 分以上 30 分未満
3. 30 分以上 45 分未満
4. 45 分以上 60 分未満
5. 60 分以上

問4. 中学校の配置についてご回答ください

(1) 中学校の通学距離は、国の基準によると「おおむね6 キロメートル以内であること（おおむね1 時間以内）」となっていますが、どの程度の時間までが許容範囲と思われるかご回答ください。(1 つに○)

1. 15 分未満
2. 15 分以上 30 分未満
3. 30 分以上 45 分未満
4. 45 分以上 60 分未満
5. 60 分以上

問5. 地域における拠点としての役割についてご回答ください

(1) 小・中学校は児童・生徒の大切な学びの場であるとともに、地域における活動拠点としての役割も担っています。

小・中学校がこれからの地域における拠点として担う役割の中で、重要だと考えるものをご回答ください。

(複数選択可)

1. 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所
2. 地域防災の拠点
3. 地域の活動・交流の拠点
4. スポーツ活動の拠点
5. 文化活動の拠点
6. 生涯学習の拠点
7. 子育て支援の拠点
8. 高齢者福祉の拠点
9. 障がい者福祉の拠点
10. 児童・生徒の学びの場以外の役割は不要
11. その他 ()

問6. 学校の適正な規模・配置についてご回答ください

(1) ここまで、学校の適正規模等に関連して、望ましい学級人数、また、学校が地域の拠点として期待される役割などについてお尋ねをしましたが、さらに、検討にあたっては、特にどのような点に配慮するべきかご回答ください。(1つに○)

1. 多くの児童・生徒、学年との交流
2. 多様な考え方に触れる機会の確保
3. 幼・保・小の連携、小・中連携の推進
4. 放課後児童、小1の壁対策の推進
5. その他 ()

※小1の壁：子どもが小学校に入学した際、保護者が仕事と子育ての両立が難しくなること。

(2) 学校施設の老朽化がすすんでいる現状をふまえ、今後、どのような考え方で整備を進めていく必要があると思われるかご回答ください。(1つに○)

1. 現在の学校数を維持するために、多額の経費が必要であっても、全ての学校を建て替える
2. 現在の学校数・規模を前提に、当面、老朽化が著しい部分のみを改修する
3. 現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える
4. 現在の学校数を維持するが、将来の児童・生徒数を考慮し、規模を縮小したうえで、老朽化の度合いに応じて、必要な改修を行いながら、将来的にすべて建て替える
5. 将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える
6. その他 ()

【自由意見】

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

未来の斑鳩町立小・中学校のあり方に関するアンケート調査

～みなさまのご意見をお聞かせください～

斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会

委員長 安井 義和

斑鳩町においては、学校施設の老朽化をふまえ、今後見込まれる児童・生徒数の減少や学校施設が持つ多様な機能に留意しながら、将来を見据えた学校施設の整備が求められています。

本委員会は、こうした状況をふまえ、未来の斑鳩町を担う子ども達のがのびやかに、そして楽しい学校生活を送ることができるよう、町立学校の適正規模・配置に係る構想について検討するため、町教育委員会において設置され、去る8月20日に諮問を受けたところです。

今後、構想の取りまとめに向け、地域・保護者の代表者、学校関係者や有識者からなる委員により調査・審議をすすめてまいります。その際には、まず何よりも、保護者、教職員の皆様をはじめ、地域の皆様から、学校規模、配置に大きく影響を与えることとなる1学級あたりの児童生徒数や学級数などに関するご意見をお伺いし、そのご意見をふまえ、本委員会で議論をすすめてまいらなければならないと考え、本アンケート調査を実施することと致しました。

この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、この調査の回答は、集計後に、様々な調査・分析を行うために、全て統計的に処理し、上記の目的以外に使用することはありません。

また、この調査は、無記名でお答えいただきますので、回答内容について、皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

【 裏面をご覧ください 】

～アンケート調査の回答について～

●回答期限：11月29日（金）まで

●回答方法：インターネット（二次元バーコード・URL）による回答を基本とし

ております。この方法によるご回答が難しい場合は、アンケート調査用紙にご記入のうえ、所属校（園）にご提出をお願いします。



※アンケート所要時間：概ね5分程度

URL (<https://forms.office.com/r/vZSDTwkkAg?origin=lprLink>)

【アンケートに関するお問い合わせ先】 斑鳩町役場教育委員会事務局 総務課

TEL：0745-74-1123

e-mail：kyouisoumu@town.ikaruga.nara.jp

【参 考】児童生徒数及び学級数の予測、小中学校の建築物の状況について

(1) 児童生徒数及び学級数の予測について

令和2年の国勢調査から、国立社会保障・人口問題研究所が推計した結果に基づく児童生徒数の将来予測は、約40年後の令和47年度では、令和6年度2,295人に対し、約7割となる1,628人、中間年の令和27年度では約8割の1,911人となっています。

また、現行の1学級あたりの学級編制基準に基づく学級数は、令和47年度、令和27年度とも、小学校では、各学年2～3学級、中学校では各学年3学級となっています。

(2) 小中学校の建築物の状況について

いずれの棟も耐震基準は満たしていますが、平均築年数が約47年を経過し、計画的整備が求められています。

－ 詳しくは、次の資料をご参照いただきますようお願いいたします －

○ 斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会について



斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会

検索

URL <https://www.town.ikaruga.nara.jp/0000002892.html>

○ 児童生徒数及び学級数の予測、小中学校の建築物の状況について



URL [https://www.town.ikaruga.nara.jp/cmsfiles/contents/0000002/2892/\[4\]R5chosakekka.pdf](https://www.town.ikaruga.nara.jp/cmsfiles/contents/0000002/2892/[4]R5chosakekka.pdf)

アンケート調査用紙

ご回答いただく方ご自身について（お子様が2人以上のご家庭（世帯）は、お一人分のみ、回答してください）

該当する園・校に○と学年をご記入ください。

お子様の通われている園・学校	斑鳩黎明保育園 （ 歳児）
	小規模保育所ほうりゅうじみなみ （ 歳児）
	レイモンド斑鳩こども園・法隆寺幼稚園 （ 歳児）
	たつた保育園・あわ保育園 （ 歳児）
	斑鳩幼稚園・斑鳩東幼稚園 （ 歳児）
	斑鳩小学校・斑鳩西小学校・斑鳩東小学校 （ 年生）
	斑鳩中学校・斑鳩南中学校 （ 年生）

問1. 小学校の規模についてご回答ください

- （1） 小学校の1学級あたりの児童数は、町独自の少人数学級編制で、「小学校1・2年生は1学級 30 人、3年生～6年生は1学級 35 人」としていますが、国の基準によると「小学校5年生までは1学級 35 人、6年生は1学級 40 人を標準とする」となっています。1学級あたりの児童数について、どう思われるかご回答ください。（1つに○）

1. 現状より少ない方がよい
2. 現状のままでよい
3. 現状より多い方がよい

- （2）（1）の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

（複数選択可）

1. 児童一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる
2. 学力を伸ばすことができる
3. クラスとしての一体感が生まれる
4. 一人ひとりが大切にされる
5. 教室にゆとりがでる
6. 学習活動や学校行事等において、児童一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる
7. 児童の人間関係が深まりやすい
8. その他（ ）

(3) (1) の回答で、「現状より多い方がいい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 多くの児童との交流が生まれる
2. お互いに学力を高めあうことができる
3. 社会性を身に付ける機会に恵まれる
4. 集団内で色々な役割分担を経験できる
5. 運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる
6. 多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい
7. その他 ()

(4) 小学校の学級数は、国の基準によると「1 学年あたり 2～3 学級（全校で 12～18 学級）を標準とする」（なお、複式学級を解消するためには少なくとも 1 学年 1 学級以上（全校で 6 学級以上）であることが必要となります。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには、1 学年 2 学級以上（全校で 12 学級以上）あることが望ましい）となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われるかご回答ください。

(1 つに○)

1. 1 学年あたり 1 学級
2. 1 学年あたり 2～3 学級
3. 1 学年あたり 4 学級以上

(5) (4) の回答で「1 学年あたり 1 学級」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。（1 つに○）

1. 一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる
2. 学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる
3. 同じ児童とずっと同じクラスで過ごせ、児童同士が親密になれる
4. 異学年との交流があり、学年を超えた友達がしやすい
5. 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい
6. その他 ()

(6) (4) の回答で「1 学年あたり4 学級以上」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。(1 つに○)

1. さまざまな個性を持つ先生と出会う
2. 協調性を養う機会に恵まれる
3. クラス替えにより、たくさんの友達ができる
4. 児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える
5. 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい
6. 運動会や学習発表会等の学校行事が盛り上がる
7. その他 ()

問2. 中学校の規模についてご回答ください

(1) 中学校の1 学級あたりの生徒数は、町独自の少人数学級編制で、「1 学級 35 人」としていますが、国の基準によると「1 学級 40 人を標準とする」となっています。1 学級あたりの生徒数について、どう思われるかご回答ください。(1 つに○)

1. 現状より少ない方がよい
2. 現状のままでよい
3. 現状より多い方がよい

(2) (1) の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる
2. 学力を伸ばすことができる
3. クラスとしての一体感が生まれる
4. 一人ひとりが大切にされる
5. 教室にゆとりがでる
6. 学習活動や学校行事等において、生徒一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる
7. 生徒の人間関係が深まりやすい
8. その他 ()

(3) (1) の回答で、「現状より多い方がいい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 多くの生徒との交流が生まれる
2. お互いに学力を高めあうことができる
3. 社会性を身に付ける機会に恵まれる
4. 集団内で色々な役割分担を経験できる
5. 運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる
6. 多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい
7. その他 ()

(4) 中学校の学級数は、国の基準によると「1 学年あたり 4～6 学級（全校で 12～18 学級）を標準とする（なお、全学年でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能としたり、同学年に複数教員を配置するためには、少なくとも 1 学年 2 学級以上（全校で 6 学級以上）が必要となります。また、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも 9 学級以上を確保することが望ましい）」となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われるかご回答ください。（1 つに○）

1. 1 学年あたり 1 学級
2. 1 学年あたり 2～3 学級
3. 1 学年あたり 4 学級以上

(5) (4) の回答で「1 学年あたり 1 学級」または「1 学年あたり 2～3 学級」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。（1 つに○）

1. 一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる
2. 学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる
3. 同じ生徒と比較的同じクラスで過ごせ、生徒同士が親密になれる
4. 異学年との交流があり、学年を超えた友達ができやすい
5. 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい
6. その他 ()

(6) (4) の回答で「1 学年あたり4 学級以上」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。(1 つに○)

1. さまざまな個性を持つ先生と出会う
2. 協調性を養う機会に恵まれる
3. クラス替えにより、たくさんの友達ができる
4. 生徒が相互に刺激あい、切磋琢磨する機会が増える
5. 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい
6. 運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる
7. その他 ()

問3. 小学校の配置についてご回答ください

※ (1) は、小学校に通われている児童がおられる方のみ、(2) は、全ての方がご回答ください。

(1) お子さんの通われている(通う予定)の小学校までの通学時間をご回答ください。(1 つに○)

1. 15 分未満
2. 15 分以上 30 分未満
3. 30 分以上 45 分未満
4. 45 分以上 60 分未満
5. 60 分以上

(2) 小学校の通学距離は、国の基準によると「おおむね4キロメートル以内であること(おおむね1時間以内)」となっていますが、どの程度の時間までが許容範囲と思われるかご回答ください。(1 つに○)

1. 15 分未満
2. 15 分以上 30 分未満
3. 30 分以上 45 分未満
4. 45 分以上 60 分未満
5. 60 分以上

問4. 中学校の配置についてご回答ください

※（１）は、中学校に通われている生徒がおられる方のみ、（２）は、全ての方がご回答ください。

(1) お子さんの通われている（通う予定）の中学校までの通学時間をご回答ください。（1つに○）

1. 15 分未満
2. 15 分以上 30 分未満
3. 30 分以上 45 分未満
4. 45 分以上 60 分未満
5. 60 分以上

(2) 中学校の通学距離は、国の基準によると「おおむね6キロメートル以内であること（おおむね1時間以内）」となっていますが、どの程度の時間までが許容範囲と思われるかご回答ください。（1つに○）

1. 15 分未満
2. 15 分以上 30 分未満
3. 30 分以上 45 分未満
4. 45 分以上 60 分未満
5. 60 分以上

問5. 地域における拠点としての役割についてご回答ください

(1) 小・中学校は児童・生徒の大切な学びの場であるとともに、地域における活動拠点としての役割も担っています。

小・中学校がこれからの地域における拠点として担う役割の中で、重要だと考えるものをご回答ください。

(複数選択可)

1. 児童・生徒の放課後の居場所・活動が場所
2. 地域防災の拠点
3. 地域の活動・交流の拠点
4. スポーツ活動の拠点
5. 文化活動の拠点
6. 生涯学習の拠点
7. 子育て支援の拠点
8. 高齢者福祉の拠点
9. 障がい者福祉の拠点
10. 児童・生徒の学びの場以外の役割は不要
11. その他（

問6. 学校の適正な規模・配置についてご回答ください

- (1) ここまで、学校の適正規模等に関連して、望ましい学級人数、また、学校が地域の拠点として期待される役割などについてお尋ねをしてまいりましたが、さらに、検討にあたっては、特にどのような点に配慮するべきかご回答ください。(1つに○)

1. 多くの児童・生徒、学年との交流
2. 多様な考え方に触れる機会の確保
3. 幼・保・小の連携、小・中連携の推進
4. 放課後児童、小1の壁対策の推進
5. その他 ()

※小1の壁：子どもが小学校に入学した際、保護者が仕事と子育ての両立が難しくなること。

- (2) 学校施設の老朽化がすすんでいる現状をふまえ、今後、どのような考え方で整備を進めていく必要があると思われるかご回答ください。(1つに○)

1. 現在の学校数を維持するために、多額の経費が必要であっても、全ての学校を建て替える
2. 現在の学校数・規模を前提に、当面、老朽化が著しい部分のみを改修する
3. 現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える
4. 現在の学校数を維持するが、将来の児童・生徒数を考慮し、規模を縮小したうえで、老朽化の度合いに応じて、必要な改修を行いながら、将来的にすべて建て替える
5. 将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える
6. その他 ()

【自由意見】

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

未来の斑鳩町立小・中学校のあり方に関するアンケート調査

～みなさまのご意見をお聞かせください～

斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会

委員長 安井 義和

斑鳩町においては、学校施設の老朽化をふまえ、今後見込まれる児童・生徒数の減少や学校施設が持つ多様な機能に留意しながら、将来を見据えた学校施設の整備が求められています。

本委員会は、こうした状況をふまえ、未来の斑鳩町を担う子ども達のがのびやかに、そして楽しい学校生活を送ることができるよう、町立学校の適正規模・配置に係る構想について検討するため、町教育委員会において設置され、去る8月20日に諮問を受けたところです。

今後、構想の取りまとめに向け、地域・保護者の代表者、学校関係者や有識者からなる委員により調査・審議をすすめてまいります。その際には、まず何よりも、保護者、教職員の皆様をはじめ、地域の皆様から、学校規模、配置に大きく影響を与えることとなる1学級あたりの児童生徒数や学級数などに関するご意見をお伺いし、そのご意見をふまえ、本委員会で議論をすすめてまいらなければならないと考え、本アンケート調査を実施することと致しました。

この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、この調査の回答は、集計後に、様々な調査・分析を行うために、全て統計的に処理し、上記の目的以外に使用することはありません。

また、この調査は、無記名でお答えいただきますので、回答内容について、皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

【 裏面をご覧ください 】

～アンケート調査の回答について～

●回答期限：11月29日（金）まで

●回答方法：インターネット（二次元バーコード・URL）による回答を基本とし

ております。この方法によるご回答が難しい場合は、アンケート調査用紙にご記入のうえ、所属校（園）にご提出をお願いします。



※アンケート所要時間：概ね5分程度

URL (<https://forms.office.com/r/tMzDmU3mLT?origin=lprLink>)

【アンケートに関するお問い合わせ先】 斑鳩町役場教育委員会事務局 総務課

TEL：0745-74-1123

e-mail：kyouisoumu@town.ikaruga.nara.jp

【参 考】児童生徒数及び学級数の予測、小中学校の建築物の状況について

(1) 児童生徒数及び学級数の予測について

令和2年の国勢調査から、国立社会保障・人口問題研究所が推計した結果に基づく児童生徒数の将来予測は、約40年後の令和47年度では、令和6年度2,295人に対し、約7割となる1,628人、中間年の令和27年度では約8割の1,911人となっています。

また、現行の1学級あたりの学級編制基準に基づく学級数は、令和47年度、令和27年度とも、小学校では、各学年2～3学級、中学校では各学年3学級となっています。

(2) 小中学校の建築物の状況について

いずれの棟も耐震基準は満たしていますが、平均築年数が約47年を経過し、計画的整備が求められています。

－ 詳しくは、次の資料をご参照いただきますようお願いいたします －

○ 斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会について



斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会

検索

URL <https://www.town.ikaruga.nara.jp/0000002892.html>

○ 児童生徒数及び学級数の予測、小中学校の建築物の状況について



URL [https://www.town.ikaruga.nara.jp/cmsfiles/contents/0000002/2892/\[4\]R5chosakekka.pdf](https://www.town.ikaruga.nara.jp/cmsfiles/contents/0000002/2892/[4]R5chosakekka.pdf)

アンケート調査用紙

ご回答いただく方ご自身について

該当する箇所には○またはご記入ください。

担当校	1.あわ保育園 2.たつた保育園
	3.斑鳩幼稚園 4.斑鳩東幼稚園
	5.斑鳩小学校 6.斑鳩西小学校 7.斑鳩東小学校
	8.斑鳩中学校 9.斑鳩南中学校

問1. 小学校の規模についてご回答ください

- (1) 小学校の1学級あたりの児童数は、町独自の少人数学級編制で、「小学校1・2年生は1学級30人、3年生～6年生は1学級35人」としていますが、国の基準によると「小学校5年生までは1学級35人、6年生は1学級40人を標準とする」となっています。1学級あたりの児童数について、どう思われるかご回答ください。（1つに○）

1. 現状より少ない方がよい
2. 現状のままでよい
3. 現状より多い方がよい

- (2) (1) の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 児童一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる
2. 学力を伸ばすことができる
3. クラスとしての一体感が生まれる
4. 一人ひとりが大切にされる
5. 教室にゆとりがでる
6. 学習活動や学校行事等において、児童一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる
7. 児童の人間関係が深まりやすい
8. その他（ ）

(3) (1) の回答で、「現状より多い方がいい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 多くの児童との交流が生まれる
2. お互いに学力を高めあうことができる
3. 社会性を身に付ける機会に恵まれる
4. 集団内で色々な役割分担を経験できる
5. 運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる
6. 多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい
7. その他 ()

(4) 小学校の学級数は、国の基準によると「1 学年あたり 2～3 学級（全校で 12～18 学級）を標準とする」（なお、複式学級を解消するためには少なくとも 1 学年 1 学級以上（全校で 6 学級以上）であることが必要となります。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには、1 学年 2 学級以上（全校で 12 学級以上）あることが望ましい）となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われるかご回答ください。

(1 つに○)

1. 1 学年あたり 1 学級
2. 1 学年あたり 2～3 学級
3. 1 学年あたり 4 学級以上

(5) (4) の回答で「1 学年あたり 1 学級」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。（1 つに○）

1. 一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる
2. 学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる
3. 同じ児童とずっと同じクラスで過ごせ、児童同士が親密になれる
4. 異学年との交流があり、学年を超えた友達がしやすい
5. 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい
6. その他 ()

(6) (4) の回答で「1 学年あたり4 学級以上」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。(1 つに○)

1. さまざまな個性を持つ先生と出会う
2. 協調性を養う機会に恵まれる
3. クラス替えにより、たくさんの友達ができる
4. 児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える
5. 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい
6. 運動会や学習発表会等の学校行事が盛り上がる
7. その他 ()

問2. 中学校の規模についてご回答ください

(1) 中学校の1 学級あたりの生徒数は、町独自の少人数学級編制で、「1 学級 35 人」としていますが、国の基準によると「1 学級 40 人を標準とする」となっています。1 学級あたりの生徒数について、どう思われるかご回答ください。(1 つに○)

1. 現状より少ない方がよい
2. 現状のままでよい
3. 現状より多い方がよい

(2) (1) の回答で「現状より少ない方がよい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる
2. 学力を伸ばすことができる
3. クラスとしての一体感が生まれる
4. 一人ひとりが大切にされる
5. 教室にゆとりがでる
6. 学習活動や学校行事等において、生徒一人ひとりの活躍や登場の機会が多くなる
7. 生徒の人間関係が深まりやすい
8. その他 ()

(3) (1) の回答で、「現状より多い方がいい」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。

(複数選択可)

1. 多くの生徒との交流が生まれる
2. お互いに学力を高めあうことができる
3. 社会性を身に付ける機会に恵まれる
4. 集団内で色々な役割分担を経験できる
5. 運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる
6. 多様な考え方に触れる機会が多くなりやすい
7. その他 ()

(4) 中学校の学級数は、国の基準によると「1 学年あたり 4～6 学級（全校で 12～18 学級）を標準とする（なお、全学年でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能としたり、同学年に複数教員を配置するためには、少なくとも 1 学年 2 学級以上（全校で 6 学級以上）が必要となります。また、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも 9 学級以上を確保することが望ましい）」となっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われるかご回答ください。（1 つに○）

1. 1 学年あたり 1 学級
2. 1 学年あたり 2～3 学級
3. 1 学年あたり 4 学級以上

(5) (4) の回答で「1 学年あたり 1 学級」または「1 学年あたり 2～3 学級」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。（1 つに○）

1. 一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる
2. 学校行事などで一人ひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる
3. 同じ生徒と比較的同じクラスで過ごせ、生徒同士が親密になれる
4. 異学年との交流があり、学年を超えた友達ができやすい
5. 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい
6. その他 ()

(6) (4) の回答で「1 学年あたり4 学級以上」と答えられた方は、そう思われる理由をご回答ください。(1 つに○)

1. さまざまな個性を持つ先生と出会える
2. 協調性を養う機会に恵まれる
3. クラス替えにより、たくさんの友達ができる
4. 生徒が相互に刺激あい、切磋琢磨する機会が増える
5. 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい
6. 運動会や発表会等の学校行事が盛り上がる
7. その他 ()

問3. 小学校の配置についてご回答ください

(1) 小学校の通学距離は、国の基準によると「おおむね4 キロメートル以内であること（おおむね1 時間以内）」となっていますが、どの程度の時間までが許容範囲と思われるかご回答ください。(1 つに○)

1. 15 分未満
2. 15 分以上 30 分未満
3. 30 分以上 45 分未満
4. 45 分以上 60 分未満
5. 60 分以上

問4. 中学校の配置についてご回答ください

(1) 中学校の通学距離は、国の基準によると「おおむね6 キロメートル以内であること（おおむね1 時間以内）」となっていますが、どの程度の時間までが許容範囲と思われるかご回答ください。(1 つに○)

1. 15 分未満
2. 15 分以上 30 分未満
3. 30 分以上 45 分未満
4. 45 分以上 60 分未満
5. 60 分以上

問5. 地域における拠点としての役割についてご回答ください

(1) 小・中学校は児童・生徒の大切な学びの場であるとともに、地域における活動拠点としての役割も担っています。

小・中学校がこれからの地域における拠点として担う役割の中で、重要だと考えるものをご回答ください。

(複数選択可)

1. 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所
2. 地域防災の拠点
3. 地域の活動・交流の拠点
4. スポーツ活動の拠点
5. 文化活動の拠点
6. 生涯学習の拠点
7. 子育て支援の拠点
8. 高齢者福祉の拠点
9. 障がい者福祉の拠点
10. 児童・生徒の学びの場以外の役割は不要
11. その他 ()

問6. 学校の適正な規模・配置についてご回答ください

(1) ここまで、学校の適正規模等に関連して、望ましい学級人数、また、学校が地域の拠点として期待される役割などについてお尋ねをしましたが、さらに、検討にあたっては、特にどのような点に配慮するべきかご回答ください。(1つに○)

1. 多くの児童・生徒、学年との交流
2. 多様な考え方に触れる機会の確保
3. 幼・保・小の連携、小・中連携の推進
4. 放課後児童、小1の壁対策の推進
5. その他 ()

※小1の壁：子どもが小学校に入学した際、保護者が仕事と子育ての両立が難しくなること。

(2) 学校施設の老朽化がすすんでいる現状をふまえ、今後、どのような考え方で整備を進めていく必要があると思われるかご回答ください。(1つに○)

1. 現在の学校数を維持するために、多額の経費が必要であっても、全ての学校を建て替える
2. 現在の学校数・規模を前提に、当面、老朽化が著しい部分のみを改修する
3. 現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える
4. 現在の学校数を維持するが、将来の児童・生徒数を考慮し、規模を縮小したうえで、老朽化の度合いに応じて、必要な改修を行いながら、将来的にすべて建て替える
5. 将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える
6. その他 ()

【自由意見】

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。